



国立大学法人  
豊橋技術科学大学

# 同窓会報

2020  
No.37











同窓会会長挨拶

## ホームカミングデーに想う、会長最後の年！

旧第3系（電気・電子工学）1期生 古野 志健男

<2019年度（株）SOKEN 専務取締役>

豊橋技術科学大学同窓会の皆様方におかれましては、常日頃より同窓会活動に対しましてご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、直近の世界情勢に目を転じますと、マドリッドで開催されたCOP25においてパリ協定との乖離が問題視され、加えて環境活動家のグレタ・デウンベリさんが世界のCO<sub>2</sub>低減努力が実質成されていないとの批判演説もあり、地球温暖化への更なる取組みが急務となっています。大気平均CO<sub>2</sub>濃度として今年2019年5月に415ppmが記録され、1年間で5ppmも上昇しました。異常気候による悲惨な災害は世界中で多発していることは言うまでもありません。

そんな中、日本はCO<sub>2</sub>排出量第5位の国でもあり、エネルギー政策も含めたゼロインパクトCO<sub>2</sub>と豊かで明るい持続的な社会を両立していかなければなりません。そのためにも、高度な科学技術力に裏打ちされた日本独自のマネのされないモノづくりをベースにした産業競争力を更に向上していくべきです。同窓会と致しましても、世界中の豊橋技科大同窓生の年次や系の枠を超えた輪と絆を広げ、それをコアとしてまずは日本社会に貢献できるような活動をして行きたいものです。

その取組みの1つとして、豊橋技科大に昨年設立された「卒業生連携室」と同窓会の共催で、今年の11月にホームカミングデー：HCDを開催致しました。参加者は、約250名で目標をクリア致しましたが、もっともっと皆様に参加して戴きたかったと反省して居ります。ご案内が遅かったことが1つの要因です。午前中には青空の広がる中キャンパスツアーが企画され、何十年ぶりかに訪れたOB/OGの方々が、その変貌ぶりと昔の思い出が合体した風景を楽しんで居られました。午後には、世界で活躍されている卒業生を中心に8名による講演会が行われ熱心に聴講されていました。夕方には、同窓会の支援によるアルコールも交えた交流会を学生食堂で開催し、卒業以来初めても含めて何十年ぶりの再会も珍しくなく、大盛況のうちにお開きとなりました。このように、各界でご活躍されている卒業生の人脈の輪を広げていくことが、皆様のためにも大学のためにも日本のためにも繋がると確信して居ります。その他の今年度の同窓会事業としましては、昨年度と同じです。

最後になりましたが、私古野は今年度を持ちまして第7代目の同窓会会長を退任させて頂き戴きます。2013年11月からの6年5ヶ月の間、同窓会役員の方々を始め、多くのOB/OGの皆様を支えて戴きながら進んで来れたと思います。この場をお借りして、皆様方に心から深く感謝と御礼を申し上げます。

今後とも、同窓会活動への皆様方のご協力・ご理解を深くお願いして、挨拶に代えさせて頂き戴きます。



# 機械工学系

## 学内近況報告

系長 足立 忠晴



同窓会の皆様におかれましては、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成22年4月に学部・大学院組織を再編して、5つの系と総合教育院において教育・研究が行われており、旧機械システム工学系（エネルギー工学系）(旧1系)および旧生産システム工学系(旧2系)を統合した機械工学系（1系）として活動しております。

機械工学系の組織は、機械・システムデザインコース、材料・生産加工コース、システム制御・ロボットコース、環境・エネルギーコースの4つのコースで構成されており、それぞれのコースに4つの研究室があります。教員、学生ともコースに所属する研究に在籍しております。

現在、教員は教授13名、准教授14名、助教10名となっています。平成30年度末に、機械・システムデザインコースに所属されておりました森 謙一郎 教授が定年退職され、現在は本学特任教授として研究活動および授業を引き続き担当されております。システム制御・ロボットコース所属の三好 孝典 准教授が長岡技術科学大学教授として異動されました。また材料・生産加工コース所属の青葉 知弥 助教が退職され木更津工業高等専門学校へ異動され、システム制御・ロボットコース所属の田崎 良佑 助教が青山学院大学准教授として異動されております。本年度4月に、環境・エネルギーコースへ吉永 司 助教が着任されております。さらに両技科大-高専交流人事制度にて長岡工業高等専門学校から2019年4月～2020年3月までの1年間の予定で本系に山岸 真幸 准教授が赴任されております。

機械工学系のシステム制御・ロボットコースに所属され、現在、本学の理事・副学長の寺嶋 一彦 先生が2020年4月から学長として本学の発展のために活躍されることと

なっております。

2019年度から、ホームカミングデーとして、本学卒業生の皆様を母校にお迎えする行事を行っております。卒業生の皆様とともに、在校生、教職員との親睦を深める機会として開催されております。2019年11月16日に開催され、機械工学系（旧エネルギー工学系、旧生産システム工学系、旧機械システム工学系を含む）では54名の関係者の皆様を含んで合計236名の皆様が参加されました。旧エネルギー工学系に所属されておりました本学名誉教授 本間 寛臣 先生が記念講演をされ、機械工学系の環境エネルギー変換工学研究室・材料機能制御研究室をはじめとして学内の施設等の見学も行われました。また夕刻には交流会も実施されました。詳細は本学卒業生連携室のホームページ ([https://www.tut.ac.jp/survey/form/sotsuren\\_homecoming/](https://www.tut.ac.jp/survey/form/sotsuren_homecoming/)) をご覧ください。2020年も実施される予定ですので、ぜひご参加いただき本学の卒業生、在校生、教職員の方々と交流していただければ幸いです。



## 教職員紹介(令和元年12月現在)

### 【機械・システムデザインコース】

教 授	足立 忠晴,河村 庄造,柴田 隆行,森 謙一郎(特任教授)
准 教 授	安部 洋平, 竹市 嘉紀
講 師	永井 萌土
助 教	石井 陽介, 松原 真己, 鹿毛 あずさ

### 【材料・生産加工コース】

教 授	伊崎 昌伸, 戸高 義一, 福本 昌宏, 三浦 博己
准 教 授	小林 正和, 安井 利明, 横山 誠二
助 教	足立 望, 笹野 順司, 山田 基宏

### 【システム制御・ロボットコース】

教 授	内山 直樹, 佐藤 海二, 章 忠
准 教 授	阪口 龍彦, 佐野 滋則, 真下 智昭
助 教	秋月 拓磨, 白砂 絹和

### 【環境・エネルギーコース】

教 授	飯田 明由, 中村 祐二, 柳田 秀記, 中川 勝文(特定教授)
准 教 授	鈴木 孝司, 関下 信正, 横山 博史, 松岡常吉
助 教	西川原 理仁, 吉永 司, 川村 洋介(特定助教)



## 退職教員より

「研究は面白い」

森 謙一郎

私は1997年10月に大阪大学から生産システム工学系の教授として赴任して、21年半本学にお世話になりました。生産システム工学系は加工学、材料工学、生産計画学の3コースに分かれており、加工学の塑性加工研究室に所属し、その後改組で機械工学系になりました。私は本学に赴任するまでは、10ヶ月のドイツ留学を除いて大阪、神戸、京都の関西圏から離れたことはなく、初めて関西圏以外で生活することになり、少し不安でしたが、豊橋で楽しく過ごすことができました。

私の研究している塑性加工は、金型によって金属材料を大きく変形させて所定の形状にする加工法であり、電気機器、自動車などの金属部品が製造されています。学生時代から塑性加工をシミュレーションする有限要素法を開発してきており、赴任直後もこの研究を続けていました。しかし、1990年代ぐらいから市販有限要素ソフトウェアの機能が充実してきて、大学で開発を行うのが難しくなってきました。愛知県、静岡県は自動車産業が盛んであり、自動車製造と深く繋がっている塑性加工の研究を行うのは適した地域であり、本学に来てから産業界からホットな情報が得られるようになり、その情報を元にして新しい塑性加工法の開発という内容に研究をシフトすることができました。特に、自動車の燃費を向上する軽量化部品の成形技術は、世界的にリードしている研究であり、論文引用数が非常に多くなっています。

有限要素法のソフトウェアから新加工法のハードウェア開発にうまくシフトできたのは、高専出身者が多い本学

の学生のサポートがあったからです。高専出身者はものづくりの高い素養を持っており、研究室の学生は研究の実行、実験機器の製作、データの収集などをしてくれて、優れた研究活動をすることができました。さらに、牧清二郎三重大学名誉教授、原田泰典兵庫県立大学教授は研究立ち上げ時にお世話になり、安部洋平本学准教授、前野智美横浜国大准教授は研究に多大なご支援をいただきました。恩師である大阪大学名誉教授の小坂田宏造先生がよくおっしゃっていた、「面白いことをする」、「国際誌に論文を書く」を念頭に入れて研究を進めてきました。スタッフ、学生、企業技術者とディスカッションしながら研究・開発を進めていくと素晴らしいアイデアが生まれたり、研究を進めていくと予想もしない結果が得られたりして、研究が非常に面白かったです。学生も就職後このような研究・開発の面白さを感じながら仕事をして欲しいと思っています。

2001年に成形加工の数値解析の国際会議、2010年と2018年に塑性加工の国際会議を豊橋で、2014年に塑性加工の国際会議を名古屋で開き、国外からも多くの研究者が出席し、研究の国際的な情報交換を行うことができました。自動車産業が多い愛知県で塑性加工関連の国際会議を開くことができたのは有意義でした。

研究室では毎年夏休み前に近くの海岸でバーベキューを行って美味しいものを食べて楽しみ、写真は昨年8月のバーベキューのものです。

楽しく研究、教育ができたのは先生、学生、職員、企業技術者の皆様のお陰であり、深く感謝致します。



夏休み前に近くの海岸で行っているバーベキュー



## 新任教員より

機械工学系 助教 吉永 司



2019年4月1日付で機械工学系に助教として着任しました吉永です。出身は大阪で、舞鶴高専を卒業の後、大阪大学基礎工学部に編入し、大阪大学基礎工学研究科の和田研究室で博士過程を修了いたしました。その後、同研究室で1年間特任助教として働いた後、本学の自然エネルギー変換科学研究室（飯田研究室）に着任いたしました。

専門は流体力学で、これまで空力音響学の観点から、子音の発音に関して研究を行ってきました。子音の中でも、摩擦音と言われる[s]や[f]、[h]等の子音は、口腔内に狭窄流路を形成し、ジェット流を発生させることにより空力音として発音することが知られています。その発音に関して、熱線流速計とマイクロフォンを用いた流体音響実験や、ラージエディターシミュレーションなど、空力音響学のアプローチを用いて研究を行っております。最近では、医療画像を元に舌の運動をモデル化し、口腔形状がダイナミックに動く際にどのように気流が乱流となり、音の発生をコントロールしているのかについて調べています。これらの研究により、構音障害等のリハビリ治療に役立てればと考えています。

また、子音に関する流体力学シミュレーションを元に、チンパンジーと現代人の顎形状を比較・解析することにより、人類の発音の起源について調べています。単に工学分野だけでなく、医療分野や人類学分野との融合研究により、非常に刺激的で楽しく研究を進めています。今後は、飯田研究室の風洞技術や流体計測技術との融合により、さらなる研究成果が生み出せればと考えています。

# 研究室だより

## 機械工学系

### マイクロ・ナノ機械システム研究室の近況報告

福永 健

卒業生ならびに修了生の皆様方におかれましては、お元気でご活躍のことと拝察いたします。本研究室の近況についてご報告申し上げます。

現在、本研究室は柴田隆行 教授、永井萌土 講師、鹿毛あずさ 助教、村井麻葉 秘書、研究員 3 名、技術補佐員 1 名、博士前期課程 11 名、学部生 9 名が在籍し、総勢 28 名で構成されています。そのうち外国人研究員 1 名、留学生 3 名が在籍しております。上記に加え短期滞在の外国人が 2 名おり、数年前と比べて国際化が進んでいます。

当研究室では、マイクロ・ナノマシニングによって作られる電子機械 (MEMS) に関する基礎研究から応用研究までの研究活動をしています。最近では、医療・医薬・生命科学のイノベーション創出を支援するキーデバイス・システムの開発に注力しています。具体的な研究テーマとして、① AFM 応用ナノ加工、② マルチプレックス遺伝子診断デバイス、③ 単一細胞プリンティング、④ 微生物融合型 MEMS に取り組んでいます。

研究室の一貫したコンセプトは、“MEMS 技術を究めナノとバイオへの架け橋を築く” ことにあります。「加工原理にとらわれない」、「加工対象にとらわれない」、「使用部品にとらわれない」を基本理念とし、マイクロ・ナノ領域での次世代の“ものづくり基盤技術”の開拓にチャレンジしています。例えば新材料としては、ヒト細胞、微生物、核酸、ソフトマテリアルを中心に扱っています。

研究活動以外の行事は、新入生歓迎会、忘年会、追いコンがあり、さらに不定期に昼食会も開催しています。先輩・後輩が関係なく楽しんでおり、研究の良きリフレッシュになるとともに、当研究室の学生間の距離の近さを改めて感じさせてくれます。

豊橋方面にお越しになる機会がございましたら、ご多用とは存じますが、研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍を祈念します。今後とも研究室をご支援くださいますようお願い申し上げます。





## 界面・表面創製研究室の近況報告

福留 光晟

本学卒業生ならびに修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。今年度の界面・表面創製研究室の近況についてご報告申し上げます。

本研究室は、福本昌宏 教授、安井利明 准教授、山田基宏 助教のもと、博士前期課程 15 名、博士後期課程 1 名、学部生 10 名、後期から研究員 1 名が加わり、総勢 27 名となっております。また福本 教授は、今年度で定年退職を迎えられます。

本研究室では、高分子や CFRP などの高次複合材料を含め、金属とセラミックスのような異なる特質の要素を接合あるいは複合化し、全体として高機能・高付加価値化した接合体の創製を可能とするプロセスの開発、ならびに高度化を目的とする研究を行っており、内容としては大きく二つのテーマに分けられます。

一つは、バルク材表面への厚膜あるいは薄膜の形成による材料表面の高機能・高特性化に関する研究です。厚膜形成法としては主に溶射法を用いており、プロセスの高制御化とともに新機能材料の創製を目指しています。また、溶射法での溶融による材料の特質劣化を防ぐため、非溶融の状態での成膜を可能とするコールドスプレー法、サブミクロン～ナノサイズの微粒子による成膜法としてのサスペンション溶射法へと対象を広げています。

もう一つは、異種バルク材料間の接合によるバルク体としての高特性化に関する研究です。バルク材料の接合法として非溶融の固相接合法である摩擦攪拌接合により、異材接合の実用化を進めています。特に、塑性流動させた軟質材料と固定硬質材料との界面で形成される新たな固体間の接合原理を基に、突き合わせ接合における二次元任意形状界面接合、金属/セラミックスの重ね接合体創製などへと、適用範囲を広げています。

もし豊橋方面付近に立ち寄る機会がございましたら、研究室にお気軽にお越しください。研究室一同、心よりお待ちしております。

また今年度で定年退職を迎えられる福本 教授の最終

講義が 3 月 13 日（金）に、退職記念パーティー、および同窓会が 3 月 14 日（土）に開催を行います。ご多用とは存じますが、皆様の参加を心よりお待ちしております。

最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、今後とも研究室にご支援くださいますようお願い申し上げます。



## システム工学研究室の近況報告

新井 雄斗

卒業生の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。システム工学研究室の近況についてご報告申し上げます。

現在、本研究室は内山直樹 教授、阪口龍彦 准教授、そして昨年度より迎えた白砂絹和 助教の3名のもと、研究員2名、博士後期課程11名、博士前期課程26名、学部生11名で研究に勤しんでおります。機械工学系は数年前よりダブルディグリープログラムを実施しており、毎年ドイツのシュトゥットガルト大学に留学する学生がいます。昨年は私も参加し、非常に有意義な経験を積ませていただきました。前述のプログラムのためドイツからの留学生が多いですが、他にもベトナム、ミャンマー、マレーシア、インドネシア、モンゴル、メキシコ、エジプト、タンザニア出身の留学生等が在籍しており、非常に国際色豊かな研究室となっております。昨年度異動された三好 准教授の研究室の学生の一部も新たに本研究室の一員となり、大人数ですが一丸となって日々を過ごしています。

本研究室は大きく最適制御とスケジューリングの2分野に分けられます。前者は内山 教授のもと、工作機械や移動ロボットの高精度制御や省エネルギー動作の生成、また産業機械の制振制御等を中心に研究しており、他にも学生の意思を尊重した四足ロボットやぜんまいブレーキ回生に焦点を当てた研究を行っております。学術的研

究とは別に、近年は企業との共同研究も増え、画像処理など幅広いテーマを取り扱っております。後者は阪口 准教授のもと、社会環境の変動に連携したサプライチェーンマネジメント手法に関する研究を行っております。スケジューリング分野におきましても学術的研究に加えて、市役所と共同で行っている最適な巡回経路生成や食品生産管理など外部との共同研究が増えています。白砂 助教はウェブレット変換と多変量解析を用いた音声解析を専門としており、いびきを用いた簡易診断システムの研究をしつつ学生の支援を行っています。両分野とも、IEEEやSICEをはじめとする国際会議や機械学会講演会等にて積極的に成果発表を行っており、私も昨年度博士後期課程を修了した学生と共に国際会議を経験させていただきました。

研究以外にも、歓迎会や忘年会、追いコンなどの催し物も行っており、先輩後輩留学生関係なく楽しんでおり、研究活動にメリハリをつけつつ協力し合う風土が醸成されています。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面にお越しになる際はぜひ当研究室にお立ち寄りください。研究室一同お待ち申し上げます。最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。





## 環境エネルギー変換工学研究室の近況報告

松木 大輝

卒業生、修了生の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと存じます。今年度の環境エネルギー変換工学研究室の近況についてご報告申し上げます。

2019年12月現在、環境エネルギー変換工学研究室は、中村祐二教授、松岡常吉准教授、Ju博士、井口美穂秘書、そして学生29名（博士後期課程7名、博士前期課程12名、学部4年生10名）の総勢33名となっております。本研究室の教育方針は、“Learn, how to learn（学び方を学ぶ）”の下にあり、普段の研究生活では、学生同士で専門書を輪読したり、ディスカッションをしたりし、あらゆる問題を解決するために「探している答えにたどり着くための方法」を経験し、学生同士で自発的に学んでいます。

さて、本研究室では、エネルギー変換システムにおいて今なお重要な役割を担っている“燃焼”を研究分野としています。燃焼は、短時間で高い熱量を発生させるため、それを制御することは、一つ目として、“燃焼を上手に利用すること”、二つ目として、“火災から人命や財産を守ること”、この二つの観点から意義があります。

一つ目の燃焼をうまく利用する研究は、自動車やロケットなどの原動機の効率改善や排出物の低減を目的としています。この中には、液体燃料を用いた燃焼器の最適設計や、固体燃料と液体酸化剤を用いたハイブリッドロケットモータに関する研究、二酸化酸素から水を生成さ

せる反応器の最適熱設計といったものがあり、燃焼をうまく利用し、人と環境に優しい高効率、低環境負荷の燃焼技術開発に貢献しています。

二つ目の火災から人命を守るための研究には、近年軽量化のために特に活用されている高分子材料の複雑な燃焼挙動のモデル化や火災試験場に適用できる新型熱流束センサの開発、超音波を用いた温度計測手法の確立を目的としたものなど、火災の高度センシングや抑制を目指した基礎研究を行っています。

本研究室の学生は研究活動だけではなく、1系対抗のスポーツ大会や学内の大掃除などにも積極的に参加しており、心身ともに成長できるように活発的に研究室生活を送っています。そのほかにも毎年、様々な国から留学生が本研究室に学びに来ているほか、本研究室の学生は、実務訓練や研究留学、国際学会を通して、アメリカやドイツ、台湾、マレーシアなど様々な国を訪れ、学びの環境を増やし活躍しており、国際性豊かな研究室となっております。

ご多用とは存じますが、豊橋方面にお越しになる機会がございましたら、研究室にお気軽にお立ちください。研究室一同心よりお待ちしております。

最後となりましたが、卒業生、修了生の皆様の益々のご活躍を祈念すると共に、今後とも研究室にご支援くださいますようお願い申し上げます。



## 学内近況報告

准教授 高橋 一浩

本学の卒業生・修了生の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。2019年は平成から令和への改元が行われ、様々なところで祝賀ムードを感じる年となりましたが、4月には平成最後の入学生として1年次7名、3年次編入87名の学生を電気・電子情報工学課程に迎えました。

すでに皆様もご存知と思いますが、今年度は本学ではじめてホームカミングデーを開催しました。「技科大、豊橋、青春の地に集合」というテーマで本学卒業生の皆様に母校にお迎えし旧交を温めていただくとともに、在学生、教職員との交流・親睦を深める機会としていただきました。当日は、本学卒業生の皆様、同窓会の皆様、名誉教授、教職員OB・OGの先生方等、全学で約250名の方のご参加がありました。午前中には各系による施設見学ツアーを行い、2系では約20名の方に研究室ごとに施設を見学していただきました。午後に行われた記念講演会では、当時の旧課程・専攻を代表して7名の講師方々からご講演をいただき、2系を代表して本学大学院工学研究科教授、旧電気・電子工学専攻第1期生、前本学理事・副学長 井上光輝先生より「電気・電子工学から電気・電子情報工学」というご講演タイトルで在学時の苦労話や卒業後のエピソードを語っていただきました。

教員の異動については、30年度末に材料エレクトロニクス分野教授の福田光男先生が定年退職されました。福田先生には長らく教育・研究・大学運営等に多大なるご尽力頂きましたが、引き続きシニア研究員として本学のためにご尽力いただいております。また、材料エレクトロニクス分野准教授の石山武先生、集積電子システム分野助教の岩田達哉先生、情報通信システム分野助教の坂井尚貴先生、同藤枝直輝先生が本学を退職・ご栄転されました。また、平成29、30年度の高専人事交流で高知高専から機能電気システム分野に助教としていらしていた谷本壮先生が2年の任期を終えて高知高専に戻

られました。一方で平成31年4月には材料エレクトロニクス分野助教に引間和浩先生が、集積電子システム分野助手にMoise Sotto先生が、情報通信システム分野助手に阿部晋士先生がそれぞれ着任されました。

以上、電気・電子情報工学系の近況報告をさせて頂きました。本年度をもって現学長の西隆 学長が6年の任期を満了し、令和2年4月からは寺嶋一彦先生が新学長に就任される予定です。新しい執行部の下、今後とも本系教職員一同今まで以上に精進し、社会に貢献できる教育・研究活動を引き続き行っていきますので、同窓生の皆様には引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。

10月1日 Lee YouNa 助教昇進

4月1日 河村 剛 准教授



ホームカミングデー 2019 講演会での様子



## 教職員紹介(令和元年12月現在)

### 【材料エレクトロニクスコース】

教 授	松田 厚範, 内田 裕久, 武藤 浩行 <sup>*1</sup> , 井上 光輝 <sup>*1</sup>
准 教 授	服部 敏明, 中村 雄一, 河村 剛, Lim Pang Boey <sup>*2</sup> , 加藤 亮 <sup>*3</sup>
助 教	後藤 太一, 引間 和浩

### 【機能電気システムコース】

教 授	櫻井 庸司, 穂積 直裕, 滝川 浩史
准 教 授	稲田 亮史, 村上 義信
助 教	針谷 達, 川島 朋裕

### 【集積電子システムコース】

教 授	若原 昭浩, 澤田 和明, 石川 靖彦, 岡田 浩 <sup>*1</sup>
准 教 授	河野 剛士, 高橋 一浩, 関口 寛人, 野田 俊彦 <sup>*4</sup>
助 教	山根 啓輔, 李 宥奈, 赤井 大輔 <sup>*4</sup>
助 手	Moise Sotto

### 【情報通信システムコース】

教 授	大平 孝, 市川 周一, 上原 秀幸
准 教 授	田村 昌也, 竹内 啓悟
助 教	宮路 祐一
助 手	阿部 晋士

技 術 職 員	日比 美彦, 飛沢 健
---------	-------------

\*1 総合教育院, \*2 グローバル工学教育推進機構, \*3 教育研究基盤センター, \*4 エレクトロニクス先端融合研究所

# 研究室だより

## 電気・電子情報工学系

### 河野研究室の近況報告

博士前期課程1年 三田 理央毅

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様方におかれましては、それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。

現在、河野研究室は河野 准教授他のもと、博士学生3名、修士学生9名、学部生4名の計16名で日々研究に励んでおります。

近年脳科学分野の発展と共に、神経信号取得のための刺入型電極の開発が盛んに行われています。脳に直接刺入する刺入型電極には、侵襲性の低さが求められるため様々なMEMSプロセスを用いて作製されており、多様な電極が存在しています。当研究室では、VLS結晶成長法を用いた、電極直径 $5\mu\text{m}$ 以下の世界で最も細い神経電極の開発に成功しています。また、刺入型電極だけでなくフィルム型の電極や、刺入型の針状電極とフィルム型電極を掛け合わせた電極なども作製しております。また、作製したデバイスは動物実験を通して評価しており、さらなる改良を行っています。

研究室の行事としましては、春に新4年生歓迎会、3月には送別会を行っております。また、毎年河野研究室と澤田・高橋研究室合同で2月上旬に卒業生・修了生の皆様を交えてのスキー旅行を開催しております。毎年多くの先輩方にご参加頂き、自然の中でリフレッシュすると共に、先輩方との交流の中で学校生活や研究のご助言を頂くことで親睦を深めております。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面へお越しになる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎いたします。先輩方の大学在学中の思い出や、現在の職場での経験談などの貴重なお話をお聞かせ頂ければ幸いです。

末筆ではございますが、諸先輩方のさらなるご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。





## スピン・エレクトロニクスグループの近況報告

修士2年 岩本 文吾

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

スピン・エレクトロニクスグループは、内田裕久 先生が第3代目教授として本研究室を主宰されています。井上光輝 教授、Lim Pang Boey 教授、中村雄一 准教授、後藤太一 助教の教員5名、山本ゆみこ 秘書、および学生30名（博士前期課程17名、学部13名）で構成されております。

本研究室では、磁性材料とその応用を目的として研究に励んでおります。特に、磁性フォトニック結晶、磁気光学空間光変調器、磁気ホログラムメモリ・3次元ディスプレイ、光アイソレーターの開発が進められ、国内外から高い評価を頂いております。

また、スピン波を用いた電荷非輸送型の情報処理デバイスの開発を行っています。近年では、スピン波の位相干渉を利用した論理演算素子の実証を行い、省エネルギーな次世代の情報処理デバイスの開発を目指しております。

さらには、排熱エネルギーの再利用などで使われる熱電変換材料の開発をしています。熱とスピン流とを融合させたスピンゼーバック効果を用いた発電技術の研究が行われております。

最近では、磁気の中核に据えた幅の広いテーマの追求を忘れず、ハイパワーの磁気光学Qスイッチレーザー、マルチフェロイック材料、メタマテリアルの開発など、新しいテーマを積極的に取り入れ、常に世界最先端を意識した研究を進めております。

本研究室では、様々な分野の最前線で活躍されている方をお招きしご講演いただく”磁性研ゼミナール”が行われており、国内外の著名な方々から聴講や議論を行うことができ、研究員として非常に有意義な行事として続けられております。

研究室イベントでは、春の遠足やビアパーティなど恒例行事を始めとして、研究メンバーとの交流を深める活動を今も変わらず行っております。昨年度の研究室旅行は下呂温泉、白川郷で行われ、日ごろの疲れを癒し、メンバーとの絆を深める大変有意義な時間となりました。また、来る2020年2月8日に、本グループの同窓会が開催される運びとなりました。本研究室OB、現役生が一堂に会するこの機会を、現役生一同心より楽しみにしております。

本研究室の活動について、研究室のウェブページ(<http://www.spin.ee.tut.ac.jp>)にて公開されております。また、Twitter (@tut\_spin) より最新のニュースをお知らせしております。研究成果や近況についてより分かりやすく公開させておりますので、是非ご覧ください。我々は、卒業生・修了生の皆様がなされたことが基盤となり、このような充実した今の研究活動があるものだと考えております。心から感謝致しますとともに、より一層、この研究室が活躍できますよう日々努めて参りたいと存じます。

豊橋にお近づきの際には、お気軽に研究室へとお立ち寄りください。研究室員一同、心よりお待ちしております。先輩方の貴重なお話しをお伺いできれば幸甚です。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍とご健康を研究室一同、心よりお祈りしています。



## 波動工学研究室の近況報告

助手 阿部 晋士

卒業生、修了生の皆様、元気にお過ごしでしょうか。心身ともに健やかに、充実した日々をお過ごしのことかと存じます。

我々の大平研究室は2007年に立ち上がり、来年度2020年度で13年目を迎えようとしています。大平教授の退官が近づき学部生の受け入れ人数が2人に制限され年々学生の人数が減っていますが、研究員や早期配属の学生、高専専攻科からの入学などにより研究室の規模は維持されています。具体的には教員3人、秘書3人、研究員5人、修士課程9人、学部生3人が所属しており、教職員と学生の人数が同じという珍しい状況になっています。

現在、大平研究室ではワイヤレス給電技術を中心として研究を行っており、

(1) ドローンへの駐機中給電

(2) 小型ビークルのためのワイヤレス給電インフラ

を大きなテーマとして、波動パワーを活用した研究を進めております。ワイヤレス給電効率の基本評価指標である $kQ$ 積や共鳴 $Q$ 理論、高周波回路理論と双曲幾何学を接続したポアンカレ長さによる議論、整流回路の流通時間を基に手で harmonic balance 解析を行う流通角方程式など、日進月歩で研究が進んでおります。その結果、8月

に東京ビッグサイトで行われたイノベーションジャパンや10月に幕張メッセで行われた CEATEC JAPAN 2019、11月にパシフィコ横浜で行われた Microwave Exhibition & Workshop など様々な展示会に研究成果を展示することができました。この研究室の活躍はアンテナ技術や水中ワイヤレス電力伝送、秘密鍵暗号や発振回路、電化道路電気自動車など広い応用範囲で波動工学の研究に取り組まれた研究室のOB・OGの皆様のおかげです。ありがとうございます。

さて、卒業生・修了生の皆様にお知らせがあります。大平教授は来年度末（令和3年3月）に、本学の教育・研究生生活を終えられ定年を迎えられます。研究室の卒業生・修了生、在学生一同、先生の長年にわたるご指導に心より感謝申し上げる次第です。

卒業生・修了生の皆様方におかれましては大変お忙しい日常をお過ごしのことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がありましたら研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ち申し上げます。また、その際に在学中や卒業・修了後の貴重なお話をお聞かせいただければ嬉しく思います。皆様にお会いできることを楽しみにしております。





## クリーンエネルギー変換研究室の近況報告

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

現在、クリーンエネルギー変換研究室は櫻井庸司 教授、稲田亮史 准教授のもと、修士学生 16 名、学部生 6 名の計 22 名で日々研究に励んでおります。

近年、二次電池はスマートフォンやノートパソコンのような携帯電子機器及び、ハイブリッド自動車・電気自動車や電力貯蔵といった大型の用途への応用も進み、より高エネルギー密度で長寿命な二次電池が必要とされている中、高安全であることも求められており、その根幹を成す新しい材料・プロセス・評価技術の研究開発が重要になっています。これらの電気化学エネルギー変換デバイスの高性能化・低コスト化・高安全性化に資する研究開発を我々は幅広く展開しています。

主に以下の 4 つのテーマを中心とした研究に取り組んでいます。

- (1) 次世代型リチウムイオン電池の研究
- (2) 多価イオン電池の研究

(3) 全固体リチウムイオン電池の研究

(4) 電池に関する新規計測技術の研究

研究室の行事としましては、春に新 4 年生歓迎会、冬には忘年会を開催しております。また、研究室内の親睦を深める目的で「櫻井・稲田杯」としてボーリング大会を開催しています。毎年開催しているため恒例行事となっており、研究室とはまた違う雰囲気で大いに盛り上がっています。今年の夏季休業には、研究室学生旅行として、神奈川県箱根へ行き、ビンゴ大会やみんなで温泉につかることで心も体もリフレッシュすることができました。今後もこのような行事が増えることを願っています。

櫻井庸司 教授が次年度（2021 年 3 月）末にご定年を迎えられます。ですので、ご多忙とは存じますが、お時間をごさいましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎いたします。先輩方の大学在学中、卒業・修了後のお話や現在の職場の経験談などの貴重なお話をいただければ幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。



## 学内近況報告

系長 栗山 繁

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日本政府による「Society 5.0」というキャッチフレーズも浸透してきた中、デジタル革命を担う情報・知能工学系の教育への期待が高まっているからでしょうか、本年度も昨年度と同様に、本系への編入学志願者と一般入試からの配属学生は多くの数となりました。

平成 22 年度の本学の再編以来、本系では他系と同様にコース制に基づく教育を実施してきましたが、学生から聴取した意見を参考にしながら教員間で慎重に議論した結果、学部でのコース制は廃止し、大学院のコース制は内容を刷新する事にしました。これにより、学部教育ではコース選択科目が廃止され、様々な専攻から入学してくる本学学生に適した、学習計画への柔軟性を再編前の様に復活させました。一方、大学院においては新たな名称（コンピュータ・データサイエンスコースとヒューマン・マシンインテリジェンスコース）により、各コースの修学内容がより明確化されました。

昨年度には、文部科学省が推進する「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の協力校 20 大学の一つに選定されました。これは、データサイエンスに関する教育を本学の全系に対して実施するものであり、情報メディア基盤センターと本系の教員が中心となり来年度からの開講に備えた E-ラーニング教材を鋭意開発中です。これに伴い、本系のソフトウェア開発に関連する演習科目も、時代に即した内容へと変更しました。

本学ではグローバル技術科学アーキテクト養成コースの創設など、国際的な教育制度の充実化を進めていますが、本系においても様々な国際的取り組みを実施しております。定例行事としては、インドネシアのバンドン工科大学と Ahmad Dahlan 大学との共催による国際会議（ICAICTA2019）をインドネシアのジョグジャカルタ市で開催しました。今回も昨年度と同様に、海外での研究発

表を早期に体験してもらうために、学部 3 年次の学生に高専時代の研究内容をポスター発表する機会を設け、3 名を系の予算で派遣しました。来年度は会議が発足して以来初めての日本開催が予定されていますので、皆様にもご参加頂ければ幸いです。また、東フィンランド大学との協定によるダブルディグリー・プログラムは本年度から開始され、東フィンランド大学からは 3 名、本学からは 5 名の学生がプログラムに第 1 期生として参加し、新たな環境で勉学に勤しんでいます。これに加えて、本年度には文部科学省「大学の世界展開力強化事業～日-EU 戦略的高等教育 連携支援～」に採択され、欧州の 2 大学（フランスのジャン・モネ大学とベルギーのルーヴェン・カトリック大学）も参加する、英語での講義による先進的な修士課程教育プログラムの準備を進めています。

さて、本年度も数名の先生方の異動がありました。本学の教育研究に長年貢献されてこられました高橋由雅 教授が定年で退職されましたが、現在も非常勤講師としてご尽力を頂いております。また、本年 3 月には桂樹哲雄 助教が農研機構に転出され、9 月には遠藤結城 助教が筑波大学に戻られました。一方、本年 4 月には日根恭子 助教が、5 月には北岡教英 教授が新たに着任されました。

令和の時代においても情報技術の社会生活や産業に対する影響力は強まり続ける事が予想され、新たな世界観や価値観で社会を切り開いていける人材が求められています。ゆえに情報・知能工学系では以上に紹介しました様に、国際的な視野で時代の要請を踏まえながら、研究教育環境の発展に取り組んでおります。同窓生の皆様方におかれましては、引き続きご支援とご鞭撻をよろしくお願ひいたたく存じます。



## 教職員一覧及び学生現員(令和元年10月現在)

### 【計算機数理科学分野 (Computer & Mathematical Sciences)】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学,統合AI
鈴木幸太郎	教授	情報セキュリティ
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
栗田 典之	准教授	量子生物学,計算科学,ドラッグデザイン
後藤 仁志	准教授	計算化学,ハイパフォーマンスコンピューティング
佐藤 幸紀	准教授	計算機アーキテクチャ,計算機システム,ソフトウェア性能工学
相田 慎	助教	計算量理論
原田 耕治	助教	数理生物学,ウイルス学,複雑系科学

### 【データ情報学分野 (Data Informatics)】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索,データマイニング
梅村 恭司	教授	情報工学
北岡 教英	教授	音声情報処理
秋葉 友良	准教授	知能情報学
渡辺 一帆	講師	統計的学習理論,機械学習
吉田 光男	助教	ウェブ工学,自然言語処理
井佐原 均	教授	言語情報学(情報メディア基盤センター 兼任)
土屋 雅稔	准教授	自然言語処理,応用情報システム(情報メディア基盤センター 兼任)

### 【ヒューマン・ブレイン情報学分野 (Human & Brain Informatics)】

氏名	職名	専門分野
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
北崎 充晃	教授	心理物理学,認知神経学
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
松井 淑恵	准教授	聴覚心理学,音楽心理学,演奏科学
杉本 俊二	助教	神経科学
上田 祥代	助教	知覚心理学,認知科学
日根 恭子	助教	認知科学,視覚科学
鯉田 孝和	准教授	視覚神経科学(エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)
南 哲人	准教授	認知神経科学(エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)

### 【メディア・ロボット情報学分野 (Media Informatics & Robotics)】

氏名	職名	専門分野
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG関連メディア,イメージセンサ通信,知的照明
三浦 純	教授	知能ロボティクス
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン,画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング,システムソフトウェア
長谷川孔明	助教	ヒューマンエージェントインタラクション
林 宏太郎	助教	ヒューマン・ロボット インタラクション,認知科学,社会学
大島 直樹	講師	ヒューマンロボットインタラクション ヒューマンエージェントインタラクション(エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)

#### 【事務関係】

事務職員：加藤 恵子 (C棟事務室)  
山本 沙愛, 滝川 陽子, 大武 順子 (F棟事務室)  
技術職員：片岡 嘉孝, 小西 和孝

#### 【学生現員】

学 部：1年次 25名, 2年次 26名, 3年次 96名, 4年次 99名  
博士前期：1年次 83名, 2年次 85名  
博士後期：28名

## 退職教員より

### 「化学と数学とコンピュータ」

情報・知能工学系 教授 高橋 由雅

表題の「化学と数学とコンピュータ」は様々な機会で行研究室紹介のために示してきたキーワードで、化学およびその関連分野のデータ解析や情報処理のための道具としての数学やアルゴリズム、実験手段としてのソフトウェアなどコンピュータ利用技術を象徴したものです。化合物分子の様々な特性は化学構造の関数と見なすことができます。また、化合物の構造情報は原子を点、結合を辺に対応づければグラフ理論というグラフと見なすことができます。(特に、化学構造式をグラフ表現したものを分子グラフと呼ぶ) グラフは数学的なオブジェクトであり、数学的な操作が可能です。例えば、グラフの代数表現として、行列表現を用いれば種々の行列演算も可能となります。そこから導出される種々の数学量もまた化学構造の関数と見なすことができます。このことは、化合物を光学フィルターのかわりに数学的フィルター(あるいはソフトウェアフィルター)を通して眺めることにより、亀の甲だけを眺めていたら見えない新たな知識の発見にも繋がります。

筆者は山梨大学の大学院修士課程を修了後、縁あって佐々木慎一先生(本学3代目学長。当時、宮城教育大学理科研究施設教授)のグループに研究生として参加したのが今日の研究生生活に至るきっかけとなりました。当時、佐々木研では質量スペクトルやNMRスペクトルデータからコンピュータを使って有機化合物の自動構造推定システムの開発研究を進め、国内の化学・製薬企業からも多くの研究者が研究生として参加していました。また、後に本学助教授を務められた故 宮下芳勝先生(当時、佐々木

研助手)との出会いが、現在のケモインフォマティクスそして化学人工知能研究への入り口となりました。宮下先生がN.J.Nilsson著「Learning Machine」をテキストにアフターファイブの自主勉強会を開催し、これに筆者を含む数名の居候(研究生)が参加しました。輪講形式のものでした。宮下先生は東北大理学部物理化学の出身で数学が得意であったこともあり、当番の担当者はそこに出てくる式の誘導も含め、参加者全員が理解できるまで説明が求められるなど予習も大変でしたが、これが後の研究生生活の大きな礎となりました。

その後、昭和56年8月、当時発足したばかりの分析計測センターに助手として採用され、知識情報工学系の新設に伴い、分子情報工学講座の講師として自身の研究室を構えることになりました。以来、「分子情報システム研究室」なる看板の下、化学関連分野におけるより高度なコンピュータ利用技術の確立を目指し、主に化学構造情報の計算機処理のためのアルゴリズムやシステム化に関する様々な研究を基礎・応用の両面から進めてきました。この間、佐々木先生を始めとする優れた共同研究者や多くの優秀な学生・研究生に恵まれ、大学人として最後まで充実した教育・研究生生活を送ることができました。また、37年あまりに及ぶこれまでの教員生活を無事勤め上げられたのも多くの優秀な事務職員、技術職員の方々の支えがあってこそであり、すべての皆さま心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



2018年3月  
平成29年度卒業式・修了式(アイ・プラザ豊橋)にて

## 新任教員より

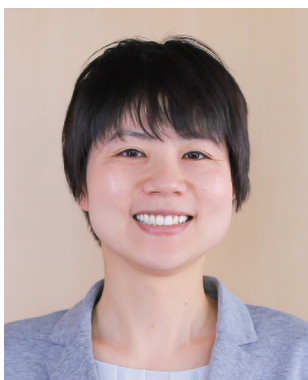


情報・知能工学系 教授 北岡 教英

2019年5月に情報・知能工学系の教授に着任しました北岡教英です。専門は、音声認識を中心とした、音声言語情報処理や音声対話処理、視線やジェスチャーなども交えたマルチモーダルインタラクションなどです。

実は豊橋技術科学大学に在籍するのはこれが初めてではありません。1997年から3年間、某自動車部品メーカーに勤務しながら、旧情報工学系の中川聖一先生の研究室にて社会人博士課程を経験し、そこで学位を取得しました。その後、一年の間を空けて、2001年から5年半、同研究室にて助手・講師を務めました。それから12年半の月日を経て、再び豊橋技術科学大学に舞い戻ってきました。幸いにも以前に在籍した際にご一緒した若手の准教授の先生方の多くが教授となられ、いまま技科大におられるので、系の仕事その他いろいろなことをご相談もさせていただきやすく、居心地よく過ごさせていただいています。

技科大では創立すぐから音声認識・音声言語処理の研究が活発でした。日本の音声研究の一大拠点であったと言っても過言ではありません。そういった時代を支えた先生方が、最近ご定年を迎えられて退職されました。人も減ってどうなるのか…と日本の音声認識業界でも危惧されていたところでしたが、そのすぐ後のタイミングで着任したということは、その拠点の維持継続さらには活性化する役割を授かったものと勝手に考えています。折しも音声言語情報処理には大きなパラダイムシフトが押し寄せている時代です。系・大学のみなさまのご協力を賜りながら、微力ではありますが役割を果たしていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



情報・知能工学系 助教 日根 恭子

2019年4月に情報・知能工学系に助教として着任した日根恭子と申します。専門は認知科学、認知心理学です。慶應義塾大学文学部で心理学の学位を取得しましたが、修士までは早稲田大学理工学部で、物性系(ダイヤモンド半導体)の研究を行っていました。理系と文系の教育を受けてきましたが、いずれにせよ科学に興味があり、日々研究に邁進しています。学位取得後は、理化学研究所で自動運転に関する研究、その後東京電機大学で助教を務めてきました。

ヒトの認知メカニズムを解明することがもっぱらの興味ですが、特に、環境に存在する情報とヒトとがどのように関わってヒトの認知が生じるか、その関係を紐解くことに興味があり、現在は特に、音楽を好ましいと感じる認知メカニズムについて調査しています。多くの人にとって不協和音は好ましいものではありませんが、好ましい音楽は人それぞれです。速いテンポを好む人もいれば、ゆっくりとしたテンポを好む人もいます。また、速いテンポが好まれやすい音楽もあれば、遅いテンポが好まれやすい音楽もあります。このように、好ましい音楽は、ヒトに起因する要因もあれば、音楽そのものに起因する要因もありそうです。この、音楽とヒトがどのように関連して「好ましい」という感覚が生まれているか、そのメカニズム解明のための研究を進めています。

豊橋は都会にないものがたくさんあり、充実した生活を送っています。特に食べ物がおいしく、健康的な生活を送りながら研究に取り組んでいます。どうぞよろしく願いいたします。





2018年10月1日付より情報・知能工学系データ情報工学分野の助教として着任しました浅川徹也です。普段は、知識データ工学情報検索研究室におります。出身は、兵庫県西宮市で、阪神タイガースや高校野球で有名な甲子園球場があります。ちなみに私はサッカー派です。博士後期課程までは兵庫県立大学に在籍し、博士取得後は、私立大学の医学部、国立大学の医学部で助教をし、この度本学お世話になることになりました。

研究分野は、“人はこの画像をどう感じるのか？”というテーマで、『感情推定』の研究を行なっております。さらに、近年注目されている深層学習を用い、様々な技術を組み合わせ、より高度な感情推定を行なっております。この研究は様々なことに社会貢献でき、一例としては、Twitter や Instagram に代表される SNS などでは、自身のアカウントに関係なく不適切な画像や動画を見てしまうことが多いので、この研究を応用することで、フィルタリングしてくれるだけでなく、人々の健康状態、心身状態に応じた画像、動画を表示または配信できることが期待できると考えています。

また、『感情推定』の研究成果を11月に中国の蘭州にて発表しました。蘭州は中国の北部にある甘粛省にあり、黄河が流れています。街自体は、非常に発展しており、高層ビルやマンションが沢山建っていました。また、11月でしたが、日中の気温は氷点下で、日本に帰ると暖かく感じました。

私事ですが、着任して早一年少しが経ち、未だに色々な発見が多くあるものの、豊橋生活にも慣れて来たように思います。教員の皆様方、事務の方々、学生さんをはじめ本学の方々にはお世話になり、感謝しています。また、趣味のフットサルやサッカーを通じて様々な人と関わり、多くの人にお世話になっています。皆様方のおかげで、本当に良い環境に身を置いていると確信しております。まだまだ至らぬ点もあると思いますが、長い目で見てください、私自身が皆様方よっての環境の一部であることを意識し貢献していきたいと考えておりますので、何卒よろしく申し上げます。

このような場を作って下さった同窓会の皆様方にも感謝申し上げます。



# 研究室だより

## 情報・知能工学系

### 量子生物学(栗田)研究室の近況報告

博士前期課程2年 江澤 拓哉

本学卒業生並びに修了生の皆様方におかれましては、ご健勝のことと存じます。本研究室では現在、栗田先生のもと博士前期課程の学生6名と学部学生2名の計9名で、以下の3つの研究グループを作って、日々研究に励んでおります。昨年度は修士論文発表会と卒業研究発表会において、それぞれ優秀賞を受賞しました。

- (1) 金属を含む細菌性酵素への薬剤耐性リスクの低い新規薬剤の提案(トロムソグループ)
- (2) アルツハイマー病原因タンパク質の凝集に対する予防薬の提案(ウクライナグループ)
- (3) FMO創薬コンソーシアム(FMODD)に所属し、「京」を含むスーパーコンピュータを用いた核内受容体タンパク質の新規抑制剤の提案(FMODDグループ)

また、海外からの留学生として、昨年度にタイの Ubon Ratchathani University (ウボンラチャタニー大学) から3名の大学院学生、今年度に The City University of New York (ニューヨーク市立大学) から2名の学部学生を迎えました。一方、今年度の海外インターンシップで、B4学生がトロムソ(ノルウェー)の北極圏大学とウクラ

イナ国立科学アカデミーにて2ヶ月間実務訓練を行う予定であり、非常に国際色豊かな研究室となっております。

昨年度は、研究室の計算機システムを一新し、現在は約70台の計算機を用いて、分子力学、分子動力学、FMO計算などの大規模並列計算を行っています。今年度はGPUマシンを試験導入し、さらなる計算機パワーの増強を行っています。

研究活動以外の行事としては、栗田先生を含めたボウリング大会、新入生歓迎会、留学生とのスケート、スキーなどを行いました。先生を含めて上下関係なく大学生活を楽しんでおり、研究のリフレッシュも適度に行っております。

このような充実した日々を過ごせるのは、卒業生・修了生の皆様の努力の積み重ねによるものだと感じております。心からの感謝を申し上げますとともに、本研究室がさらなる成長ができますように、日々努めていく所存です。

最後となりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。



## 離散最適化研究室の近況報告

博士前期課程2年 田森 琢陽

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、日々ご健勝のことと思います。さて、本稿では離散最適化研究室の近況を簡単にではありますが報告致します。現在、本研究室には学部生3人、院生8人が在籍しており、教授の藤戸敏弘先生を含め合計12人で活動しております。この内、学部生1人と院生6人が今年度で研究室を出てしまうため、来年度の人数はかなりの小規模になり、在学生の4人には寂しい思いをさせてしまうことになるかもしれません。

本研究室では、その名の通り離散最適化や組合せ最適化といった諸問題に対する研究を行っています。特に、グラフ上での頂点削除問題や辺削除問題に対する研究が盛んに行われています。最近では、助教として木村慧先生を迎え、パズルやゲームに対する計算複雑性の研究なども行われておりました。

研究室の行事としては、英語の教科書を使用した輪講や進捗報告会などの定期的なものに加え、季節の節日の飲み会、夏休みを利用した旅行などを行っています。今年の旅行では富士の麓に行き、景色や富士急ハイランドなどを楽しんできました。

話は変わりますが、毎年OBの方にリクレーターとして本研究室含め本学へといらして頂いております。就職活動に悩む学生の大きな助けになっておりますので、もしご縁があれば引き続き行って頂ければ幸いです。そうでなくても、本学の近くにいらした際にはぜひ本研究室にも顔をお見せ頂ければと思います。

最後にはなりますが、最近では気候の変動が激しく、体調を崩しやすいかと思っております。その中でも諸先輩方がつつがなく活躍できることをお祈りしております。[研究室学生一同]

最後に藤戸から、本研究室にて以前所属し皆さんがお世話になった先生方の近況を手短かに報告します。現在の所属・職位は、石井利昌先生が北海道大学経済学部教授、岡本吉央先生が電気通信大学情報理工学研究科教授、藤原洋志先生が信州大学工学部准教授、木村慧先生が埼玉大学理工学研究科助教となります。現時点で独身なのは岡本先生だけで、木村先生は新婚で、石井先生と藤原先生は子育てにも奮闘されています。では、皆さんもお元気で。







# 応用化学・生命工学系

## 学内近況報告

系長 松本 明彦

同窓生の皆様におかれましては、ますますお元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。前号の同窓会報でお知らせいたしましたように、平成31年4月1日に、「環境・生命工学課程 / 専攻」の名称を「応用化学・生命工学課程 / 専攻」に変更いたしました。平成22年4月の学科再編以来、旧環境・生命工学課程 / 専攻では、物質科学（応用化学）と生命科学を基盤として環境科学等の複合的分野をも視野に入れた課程 / 専攻として、幅広い視野を持つ高度技術者及び研究者の育成を目的として教育・研究を行って参りました。このたび、「応用化学」が本課程 / 専攻の教育研究基盤の一つであることを受験生及び産業界に対して明確に示すことを目的として名称変更を行い、これにあわせて教員配置や教育課程などを改変いたしました。旧環境・生命工学系では、「未来環境工学コース」と「生命・物質工学コース」の2つのコースが設置されておりましたが、応用化学・生命工学系では、「応用化学コース」と「生命工学コース」の2つのコースを設置いたしました。また、教員はこれまで先端環境技術・生態工学・生命工学・分子機能化学の各分野で教育・研究を行って参りましたが、これを分子制御化学・分子機能化学・生命工学の3分野に再編いたしました。これに伴い、田中三郎 教授と有吉誠一郎 准教授はエレクトロニクス先端融合研究所 (EIIRIS) に、東海林孝幸 講師は建築・都市システム学系 (5系) にそれぞれ配置換となりました。3名の兼務教員の先生方には引き続き本系の教育・研究に関わっていただいております。研究室一覧および教員配置については、別表をご参照ください。また、前年度より引き続き系長が松本、副系長が齊戸美弘 教授、浴俊彦 教授で応用化学・生命工学系を運営しています。このような体制で新たなスタートを切りましたが、4月27日に安田八郎 先生がご逝去されるという大変残念な出来事がありました。安田先生には、本学の教育・研究に長きにわたりご尽力いただき、研究室に新たに配属された4

年生の実験指導を本格的に始められた矢先でした。ここに改めてご冥福をお祈り申し上げます。また、梅影創 先生は10月末をもってご退職されました。

本系の新たな取り組みとして、これまでコース毎に2会場で行っていた卒業研究発表会を1会場で行い、全教員が4年生全員の発表に参加できる形式に改めました。これにより幅広い視点からこれまで以上に活発な議論が行われ成功裏に終了いたしました。また、本系ではこれまでと同様に質の高い活発な教育・研究活動が行われ、今年度も本系の学生・教員の受賞が数多くありました。最新の情報は、本学ホームページや応用化学・生命工学系ホームページ (<https://chem.tut.ac.jp/>) をご覧ください。

以上、応用化学・生命工学系の近況をご紹介いたしました。応用化学・生命工学系教職員一同、教育・研究・社会貢献をミッションとして一層励んで参る所存です。今後とも応用化学・生命工学系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

応用化学・生命工学系現員表(令和元年12月現在)

本務教員				兼務教員			
コース	分野	研究室名	教職員名	本務所属	研究室名	教職員名	
応用化学コース	分子制御化学分野	高分子機能化学研究室	伊津野 真一 教授 藤澤 郁英 助手	エレクトロニクス先端融合研究所	バイオセンシング応用研究室	田中 三郎 教授	
					光センシング応用研究室	有吉 誠一郎 准教授	
		機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授 伊藤 博光 助教				
		マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 教授				
		超分子化学研究室	吉田 絵里 准教授				
	機能性高分子化学研究室	原口 直樹 准教授					
	分子機能化学分野	有機合成化学研究室	岩佐 精二 教授	グローバル工学教育推進センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授	
		高分子材料工学研究室	辻 秀人 教授	教育研究基盤センター	無機材料研究室	中野 裕美 教授	
			荒川 優樹 助教	建築・都市システム学系	大気・熱環境システム研究室	東海林 孝幸 講師	
		機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 教授 佐藤 裕久 助教 大北 博宣 助手				
反応エネルギー工学研究室		小口 達夫 准教授					
有機反応化学研究室	柴富 一孝 准教授						
生命工学コース	分子生物化学分野	分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授 広瀬 侑 助教	エレクトロニクス先端融合研究所	応用共生学研究室	中鉢 淳 准教授	
		反応性プラズマ科学研究室	高島 和則 教授 栗田 弘史 助教				
		遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授				
		界面物理化学研究室	手老 龍吾 准教授				
		生体機能制御工学研究室	沼野 利佳 准教授				
		水圏環境生物工学研究室	山田 剛史 講師				
		生命機能科学研究室	吉田 祥子 講師				

応用化学・生命工学系事務室	B 棟事務室	河合 充代
	G 棟事務室	森川 夕紀子



# 研究室だより

## 応用化学・生命工学系

### 有機合成化学研究室の近況報告

博士後期課程1年 OTOG NANSALMAA

卒業生ならびに修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、それぞれの職場でお元気にご活躍のことと存じます。有機合成化学研究室の近況を報告致します。

本研究室は現在、岩佐精二 教授のもと、博士後期課程2名、博士前期課程5名、学部3名が在籍し、日々研究に取り組んでおります。留学生が4名で、時にはベトナム、モンゴルを始め5カ国の留学生が所属した時もあるグローバルな研究室です。

当研究室では、遷移金属を用いた触媒の開発や遷移金属触媒を用いたカルベン中間体の新しい不斉反応の開発やその医薬品候補群への合成的応用などを課題として研究を行っています。また、研究成果を学術雑誌に投稿したり、国内外での学会で積極的に発表したりしています。最新の研究成果としては、ジアゾオキシムエーテルの触媒的不斉シクロプロパン化反応の開発であり、新規反応の開発として、Organic Letter に掲載されました。また、インドネシアとオーストラリアで開催された国際学会 ICST 2019、CatScience-2019 において、本研究室の学生がそれぞれ奨励賞を受賞するなど高評価を頂いており

ます。これらの研究室の近況を Facebook ページ Iwasa Laboratory で公開しております。お時間がある時に是非「いいね」ボタンを押してご覧頂いたら幸いです。

研究活動以外にさくらサイエンス、交換留学プログラムでモンゴル、ベトナム、ドイツなどから毎年5人から10人程度の留学生の受け入れがあります。また、B4の実務訓練とM1の海外研究インターンシップで、ラオス、インド、ベトナム、モンゴルへ本研究室の学生を送っています。このように、研究室へのインプットだけでなく、アウトプット活動もあることで、研究以外に言語、異文化交流を体験でき、国際感覚を身に付けております。

充実した学生生活を過ごすことができているのは、卒業生ならびに修了生の皆様の積み重ねた努力のお陰だと考えております。諸先輩方におかれましてはご多忙とは存じますが、母校にお越しになる機会がございましたら、研究室にお気軽にお立ち寄りください。お会いできることを楽しみにしております。

最後となりましたが、先輩方のさらなるご活躍とご健康をお祈りしております。



## マイクロ分離科学研究室の近況報告

博士前期課程2年 網谷 美里

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしですか。

すでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、2019年4月より、「環境・生命工学系」から「応用化学・生命工学系」へと、系の名称を変更いたしました。本系の主軸である「化学」と「生命科学」を名称に組み込んだため、どのようなジャンルを学んでいるかが一目瞭然です。企業や地域の皆様、あるいは、本学への進学を考えておられる高専生や高校生の皆様にも、本系が「化学」と「生命科学」を二本柱として教育・研究を行っていることを、明確に理解していただける名称だと思えます。

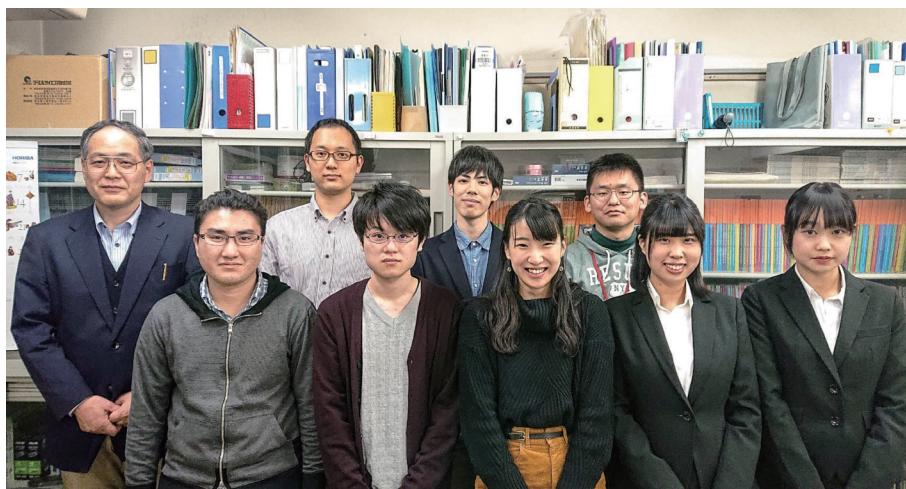
2019年度のマイクロ分離科学研究室（齊戸研究室）では、齊戸美弘 教授を筆頭に、博士後期課程2名、博士前期課程4名、学部2名の合計9名により、日々の研究に取り組んでいます。私達の研究室では、分析化学分野の中でも最も一般的に使用されている分離手法である、クロマトグラフィーおよびその技術関連の高性能化や小型化について研究しています。現在、大きく分けて2つの研究テーマに取り組んでいます。

1つ目は、クロマトグラフィーにおいて試料を成分ごとに分離する「固定相」についての研究です。クロマトグラフィーは、化学をはじめとして、薬学、医学など幅広い分野において使用されています。しかしながら、その分離メカニズムには未解明の部分が多く残されており、本研究室では、固定相の溶質分子に対する分子形状認識の

観点から、分離メカニズムの系統的解明に取り組み、その結果を応用した新規固定相の開発を行っています。

2つ目は、クロマトグラフィー関連技術の一つである「試料前処理」に関する研究です。試料前処理とは、環境試料等の多成分からなる試料中に含まれる目的成分が微量である場合、分析妨害物質を取り除くとともに、分析対象成分を濃縮し、その後の分離分析プロセスにおいて、高感度な検出を可能にする技術です。この技術において、目的成分を保持させる抽出媒体について、研究を行っています。目的成分に応じた、抽出媒体を選択する必要がありますことから、従来の抽出媒体に代わる高性能な新規抽出媒体の開発が求められています。本研究室では、耐薬品性や耐熱性を有する合成高分子材料を抽出媒体として導入し、試料前処理デバイスを試作するとともに、その試料前処理技術としての可能性を検討しています。

また、先代の神野清勝 教授の指導方針であった「修士論文を英語で書く」伝統は今も受け継がれています。現在、私も修士論文の作成に取り組んでおり、自分の研究成果を英語でまとめることの難しさに直面すると同時に、少しずつ英語で文章を書けるようになる喜びを感じています。この経験が、この先の人生の大きな力になり、世界で活躍できる技術者への第一歩だと思っています。これからも歩みを止めず、最初からできないと思わずにいるいろいろなことに挑戦していきたいと考えています。





# 建築・都市システム学系

## 学内近況報告

教授 中澤 祥二

同窓生の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

近年の大学における大きな変革の一つであるグローバル化に対する挑戦も軌道に乗り、建築・都市システム学系においても多くの留学生の受け入れや海外実務訓練、国際的視野を養う教育に取り組んでおります。最近では、モンゴル科学大学とのツィニングプログラムが始まり、学部1年および学部3年次編入学においてはグローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）による入学生も増えてきています。多くの講義は日英併記資料などによる実施を進めております。大学院においてもインドネシア・ハサヌディン大学や昨年度国際会議を共催したマレーシア科学大学とのツィニングプログラムが進められています。

このような国際化を進める一方で、国内の高専との連携を強化し、3年次編入生を着実に獲得する必要があると考えています。大学の高専連携推進センターを中心に各高専への高専訪問、出前講義を実施するとともに、高専連携研究を推進しています。系独自でも高専訪問や出前講義を積極的に行うとともに、高専・技科大建設系教員研究交流集会「持続可能社会に向けた高専・技科大の新たな教育研究連携の可能性」が8月16日、17日に豊橋で開催されました。長岡技科大に加えて、全国から10高専の教員が参加し、盛り上がりを見せました。

本系の学部の教育はJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けています。本年度は認定期間の中間の年ということもあり、自主的に外部評価を12月に実施致しました。系全体の取りまとめとして三浦均也 教授、建築コースは松井智哉 准教授、社会基盤コースは渋谷博幸 教授が中心となり、概ね良好な評価を得ました。また、本年度は大学院の認証評価の時期でもあり、大学院の教育研究活動等に係る自己点検・評価の自己点検書を作成しながら、大学院教育を見直す時期でもありました。

学生の就職活動は堅調であり、就職担当教員の私は企業との面談以外の仕事はほとんどない状態でした。学部4年生での就職が良いこともあり、大学院への進学率がやや他系に比べると低いようです。毎年、本系に関連の深い企業の方に最近の業界の状況を教えていただくキャリア教育セミナーを1月から2月にかけて3回ほど実施しています。本年度は、例年に比べて就職活動が早いこともあり、ホームカミングデー（全学合同の同窓会、11月16日）に合わせて、建築・都市システム学系同窓生・在学生懇談会を企画いたしました。初めての企画ではありましたが、14社の方に参加いただき、懇親会を含めて楽しい時間を過ごすことができました。

今年度、本系で学んでいる学生は、学部173名（うち留学生25名）、大学院博士前期課程91名（うち留学生17名）、博士後期課程17名（うち留学生14名）（いずれも12月現在）となっております。学部1年生入学生の多くは後期から希望に応じた課程に配属しますが、建築・都市システム学系への配属を希望する学生は、社会的ニーズや注目を浴びつつある専門分野と系一同実感をしております。また、留学生数も増加傾向にあり、国際的研究テーマの拡充も一層広がると共に、日本人学生にとっても刺激の増える学生生活となることと思います。

教職員では、新任教員として瀧内雄二 先生を迎え、教授12名、准教授7名、講師3名、助教6名、助手1名、技術専門職員2名、事務職員4名（12月現在）の体制となっております。

末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 教職員一覧(令和元年12月現在)

### 【建築・都市デザイン学分野】

教 授	齊藤 大樹, 中澤 祥二, 松島 史朗, 都築 和代 浅野 純一郎, 中森 康之(兼任)
准 教 授	松井 智哉, 松本 幸大, 島崎 康弘(新任) 水谷 晃啓
講 師	小野 悠
助 教	林 和宏, 瀧内 雄二(新任), 辛島 一樹, 劉 一辰

### 【都市・地域マネジメント学分野】

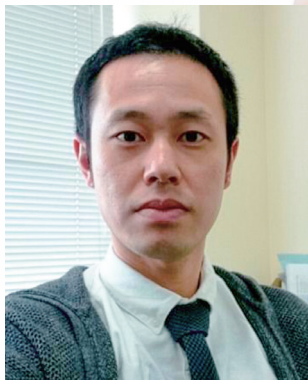
教 授	三浦 均也(系長), 井上 隆信, 加藤 茂, 渋澤 博幸 藤原 孝男(兼任), 高山 弘太郎(兼任)
准 教 授	横田 久里子, 杉木 直
講 師	松田 達也, 東海林 孝幸
助 教	岡辺 拓巳, 松尾 幸二郎
助 手	嗟峨 慎

### 【両分野】

技術専門職員	片岡 三枝子, 金田 隆文
--------	---------------

## 新任教員より

建築・都市システム学系 准教授 島崎 康弘



2018年10月に着任しました島崎康弘です。専門分野は環境工学で、安全・快適な生活環境の実現にむけた研究に取り組んでいます。私たちの生活空間は多種多様な素材により構成されており、そのような環境を構成素材の高性能・機能化や使用の工夫を通して人の快適性、また省エネルギーなどを追及した優しい空間設計を目指していきます。周辺領域にも幅広く目を向けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

# 研究室だより

## 建築・都市システム学系

### 地震災害工学研究室の近況報告

建築・都市システム学系 助教 林 和宏

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

2019年12月現在、地震災害工学研究室には博士後期課程3名、博士前期課程6名、学部4名の学生が配属されており、齊藤大樹 教授とともに研究に励んでいます。近年は研究室の国際化が進み、配属学生13名中、9名を留学生（出身国：アフガニスタン、エジプト、モロッコ、インドネシア、マレーシア、東ティモール、モンゴル）が占めております。

現在、研究室では主として「防災拠点建物の地震後残存耐震性能即時評価」、「新型ダンパーを用いた超高層建物の制振技術開発」、「杭基礎構造の終局耐力評価」の課題に取り組んでおります。

防災拠点建物の地震後残存耐震性能即時評価では、東三河地域の市庁舎や消防署に地震計を設置し、地震時の揺れのデータから建物の損傷度や残存耐震性能を即時評価するシステムを開発しています。研究では、地域自治体職員の方々が参画されている東三河地域防災協議会などとの連携を通じて、システムの被災時運用に関する検討を進めています。

新型ダンパーを用いた超高層建物の制振技術開発では、動滑車を活用した制振機構を提案検証し、将来、南海トラフ地震で問題となる長周期地震動に対する超高層ビルの地震応答低減を目指しています。研究では、ゼネ

コンの技術研究所と共同で実施する実験的検討と、齊藤教授が作成した地震応答解析プログラム STERA\_3D を活用した解析的検証を並行して進めています。また、学生と共に最新の超高層建物建設現場を見学させていただき、提案技術の社会実装に向けた課題を検討しています。

杭基礎構造の終局耐力評価では、地盤-杭-建物連成系を対象とした極大地震下の強非線形挙動や終局状態を明らかにし、建築基礎構造の二次設計法構築に資するデータの収集・整備・検討に努めています。研究は、大型振動台や遠心力载荷装置を活用した実験的検討を主とし、学外の実験施設利用も積極的に行っています。

本研究室の研究業績や活動の一部は、下記ホームページ (<http://www.rc.ace.tut.ac.jp/saito/index.html>) で紹介していますので、ぜひご覧になってください。

また、2019年12月10日には、齊藤教授がセンター長を務められている本学の安全安心地域共創リサーチセンター (CARM) 主催のシンポジウム (参加者数: 250名) が開催されました。今年度は「巨大地震と台風の複合災害に備える」をテーマに、早稲田大学 濱田政則 名誉教授ほか2名の先生方にご講演いただきました。

末筆ではございますが、同窓生の皆様におかれましては、豊橋にお立ち寄りの際、お気軽に研究室をご訪問下さいますようお願い申し上げます。皆様の今後ますますご活躍を、心よりお祈り申し上げます。





# 羽ばたけ！TUT 海外研修報告



今年度、本学では「羽ばたけ！TUT」として、総額約1,000万円規模の奨学金により、海外研修を希望する学生を支援・応援するキャンペーンを行いました。建築・都市システム学系では、本キャンペーンにより14名の学生が海外研修に参加しました。以下では、その一部の学生の報告を掲載します。



研修先：中国・西安

## 建築・都市システム学課程4年

徳原 峻人（写真左から6人目）

エネルギー中国・西安

9月16日から21日の6日間、「羽ばたけ！TUT」プログラムでの中国・西安への海外研修に参加しました。西安での生活はとてもエネルギーな印象を受けました。街中には建設をする人、広場で踊る人、掃除をする人など多種多様な活動があふれ、そこに住まう人々全員で街が創られている感じが感じられました。長安大学・西安交通大学の学生との交流では勉強に対する意欲や他者との競争心の大きさが感じられ、自らの勉学に対するモチベーションを得ることができました。窮屈さを感じない街並み・豊かな生活・人柄、どれにおいても研修以前の中国・西安に持っていた印象が大きく覆ったことがこの研修における価値を表していると思います。

## 建築・都市システム学専攻1年

山本 若菜（写真左から6人目）

私は夏休みに「羽ばたけ！TUT2019」奨学金を用いて、Grabドライバーに対するヒアリング調査とマレーシア科学大学の学生に対するWebアンケートにより、「マレーシア・ペナンにおけるライドシェアの実態調査」を行いました。今回の研修により、ライドシェアの安全性や需要と供給のバランス、持続可能性について明らかにすることができたと感じています。また、多民族国家であるマレーシアの人々、文化や食べ物はとても魅力的であり、帰国後の勉学に対するモチベーションの向上や民族や宗教を超えた広い視野の獲得につながりました。このような素晴らしい機会をくれた「羽ばたけ！TUT2019」に感謝いたします。来年も楽しみにしています。



研修先：マレーシア・ペナン



## 建築・都市システム学専攻1年

Peykar Hameedullah

The main objective of this research trip was exploring the Architecture of Netherlands specially Amsterdam city. Every region has their own architecture uniqueness, Amsterdam the capital of country which was called the city of diamonds has unrivaled architecture. Although, Amsterdam's urban Scenery is widely affiliated with medieval and Dutch Golden Age architecture, the city comprises many stunning inventive modern structural designs. These fascinating buildings form an inimitable modern cityscape which is unrivaled in the country. Furthermore, the building heights and exteriors gives you a since of relaxation when you walk through downtown. The narrow buildings with big windows, dancing buildings and floated houses around canals are full of excitement.

I have visited many architectural buildings in Netherlands but some of them grasped my attention due to their eye catching and unique designs like, Eye Film Museum, MVRDV Apartment Complex, IJ dock, Cube house, Market Hal, Stedelijk Museum, and the Bimhuis.



研修先：オランダ・アムステルダム

## 建築・都市システム学課程4年

毛利 智明 (写真右上)

研究の調査のためインド・ムンバイに10日間滞在した。アジア最大級のスラムで10日ほど通って、これまでのスラムのイメージと実際のスラムはかけ離れていた。スラムと言えど多くの経済活動が行われており、そこにいる人々も温かい。研究に協力的であったり、調査中に家へ上がらせてくれ、インドのチャイやお菓子をふるまってくれたり、とても親切であった。夜には体作りのためジムに通い、そこでもインド人のトレーナーと交流しご飯などに出掛けたり、家に連れて行ってもらったりと、現地の人々と深い交流ができ日中共に充実した研修となった。



研修先：インド・ムンバイ



## 第1回ホームカミングデー

# 「技科大、豊橋、青春の地に集合」の報告

機械工学系 役員 安部 洋平

2019年11月16日午後に本学で第1回ホームカミングデーが実施されました。大学からの情報によると多数の同窓生の参加に加えて名誉教授をはじめとする教職員OB・OGや在学生・現教職員を合わせて学内外から210名を超えたようです。大西学長、古野同窓会長のあいさつの後に本学同窓生と名誉教授による記念講演があり、同窓生の講演では在学時の苦労話や卒業後のエピソードがユーモアを交えて語られたようです。

開催に合わせて同窓会では、開始前にA棟ロビーで同窓会の集いの場を設けました。集いの場では、これまで発行された同窓会報の閲覧、同窓会会員専用サイトのID再発行、地元のお菓子の提供がなされました。同窓会報は手にとられて興味深く読まれていました。同窓会報の第4号、第5号、第6号は同窓会で保管できておらず情報提供を求めました。後日、第4号ならびに第6号の提供があり、提供者に感謝申し上げます。おかげさまで残すところは第5号のみとなりました。同窓生の皆様の中で第5号の情報をお持ちの方は是非同窓会役員へご一報下さい。同窓会会員専用サイトへの興味も高いようで、会員専用サイトのIDの発行も行われました。地元のお菓子をつまみながら、OBらが賑やかに歓談する光景が多数見受けられました。また、講演会後の交流会を大学と合同で福祉施設食堂において開催し、恩師、同窓生との再会で大いに盛り上がり、和やかな雰囲気を過ごして盛況のうちに終わったようです。







## 同窓会事務局より

### ・・・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（2018年度～2019年度） ・・・・・・・・

#### 1. 定例役員会の開催

2019年度は、2019年11月末までに3回の定例役員会（うち1回はメール持ち回り会議）を開催し、事業計画、予算、Web名簿システムの運用、次期会長候補者の選出、大学主催の第1回TUTホームカミングデイへの協力・支援等に関して話し合いました。第4回役員会は、2019年12月～2020年3月の間に開催予定です。役員会議事録は、ホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。

#### 2. 学長との懇談会

2019年6月27日に華乃井テラスにて大西学長との懇談会を行いました。大学執行部からは、大西学長、大貝理事・副学長、大貝理事・副学長、寺嶋理事・副学長、児島事務局長、同窓会からは古野会長、高嶋顧問、戸高副会長が出席しました。同窓会より、2018年度に同窓会で実施した大学支援・連携に係る活動報告と2019年度の活動計画を説明し、第1回TUTホームカミングデイ、同窓会Web名簿システムの大学との共有、男女共同参画推進室との豊彩会（OG同窓会）との連携等について、大学執行部との意見交換を行いました。

#### 3. 定例総会の開催

2019年8月25日に、豊橋駅前サテライトオフィスにて定例総会を開催し、2018年度の事業報告および収支決算報告を行うと共に、2019年度の事業計画および収支予算案の内容について議論し、承認を得ました。総会の議事録は、ホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。

#### 4. 会報の発行

同窓会報第36号を2019年3月に発行しました。これまでと同様に、会報は電子化してホームページ（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて公開しており、随時閲覧可能になっています。第37号（本号）は2019年度中の発行に向けて編集作業を進めており、Web名簿システムを介した同窓生の皆様への会報発行のメール周知を予定しています。

#### 5. Web名簿システムの運用

2015年5月より運用開始したWeb名簿システムに関して、新会員の登録・ID/Password発行、案内等の返送情報に基づく登録情報の更新、既登録会員の情報追加修正、会員登録方法・本人確認などの問合せ対応、同窓会・大学からの一斉メール通知、名簿情報提供用データの作成等を行いました。また、大学と共催した第1回ホームカミングデイに関して、名簿システムを通じて開催案内の周知を行いました。これらのシステムの管理・運用に係る作業は、事務補佐員が定期的に対応するようにしています。また、2019年度内に当Web名簿システムの大学との共有に向けて、覚書の作成、管理運用費の分担、具体的な共同管理方法等に関する作業を進めています。

#### 6. OG同窓会「豊彩会」での活動

本学男女共同参画推進室との協賛企画として、女子学生パンフレット「技科大女子百科（仮タイトル）」を2020年2月

末に作成する予定であり、これに係る経費として同窓会より7万円を支援した。同パンフレット中には、豊彩会および同窓会で実施している学生支援事業に関する記事を掲載する予定です。

## 7. 卒業記念パーティーの開催

2019年3月22日にアイプラザ豊橋にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、大学学生食堂において学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。学友会からの開催費支援の申請に対し、例年通り25万円を支援しました。記念パーティーには、古野会長、高嶋顧問、稲田副会長、安部准教授が出席しました。2019年度(2020年3月23日)も、例年通り行う予定です。

## 8. 第1回 TUT ホームカミングデイへの協力

大学が主催した2019年11月16日に開催された第1回 TUT ホームカミングデイに対し、開催協力費として30万円を支援しました。また、ホームカミングデイ当日は大学A棟1階ロビー内に同窓生用スペースを設け、過去の同窓会報の展示やWeb名簿システムの紹介、未登録者・住所変更希望者等への対応を行いました。

## 9. 同窓会会長賞

2019年4月に本学大学院博士前期課程に進学した学部4年次成績優秀者19名に同窓会会長賞を授与しました(学生の選出は各系に一任)。2019年3月22日の卒業記念パーティー冒頭に同窓会会長賞授与式を実施し、古野会長から各学生に賞状・副賞を授与しました。本制度は、2019年度も継続して実施する予定です。

## 10. 学生活動への援助

大学学生課との共同で、学生活動援助を2019年度は20団体に行いました。援助を行った課外活動団体の詳細は本文をご覧ください。

## 11. 大学食堂「めざましごはん」経費の支援

大学食堂の朝食について、2019年5月から「めざましごはんプレミアムマンデー」として、週1日(月曜日)の朝食経費の一部支援を実施しています。通常の朝食メニューに追加するサービス内容は、パン/ライス選択可、コーヒー一杯無料、デザート・小鉢一杯無料、等です。

## 12. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。2018年度は総計14件、2019年度は2019年12月までに申請のあった9件の交流活動に対して助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上(<http://www.alumni.tut.jp/>)に掲載されていますので、是非ご覧ください。

## 2018年度 豊橋技術科学大学同窓会会長賞



開学 40 周年記念同窓会事業の一つとして、研究者・技術者としての更なる飛躍が期待される学生を支援することを目的として、2016 年度に同窓会会長賞を新設しました。実施 3 年目となる 2018 年度について、2019 年 4 月に本学大学院博士前期課程に進学する学部 4 年次成績優秀者 19 名を表彰しました（表彰学生の選出は各系に一任）。

所属課程	表彰学生※
機械工学課程	杉浦 幹亮, 松下 浩基, 小幡 尚希, 野田 彩華, 辺見 拓雄, 高橋 航平
電気・電子情報工学課程	佐野 裕大, CHUA TEONG ZHE, SYLVIA LOO MEI LIN, 芦田 祐哉
情報・知能工学課程	及川 達也, 萩原 隆義, 森田 知照, 真弓 凌輔
環境・生命工学課程	浅田 浩利, 松房 利恵, 尾崎 稜太
建築・都市システム学課程	TING KA LING, 宮地 佑一

※各課程の所属学生数を考慮して表彰学生数を決めているため、課程間で受賞人数差があります。

2019年3月22日に大学食堂で開催された卒業記念パーティー冒頭に同窓会会長賞授与式を実施し、古野会長から各学生に賞状・副賞を授与しました。本制度は、今後も継続して実施します。



学生への賞状の授与



古野会長と受賞学生との記念撮影





## 2018年度 同窓会収支報告・事業報告

### 2018年度 豊橋技術科学大学同窓会 決算報告

#### 予算

##### ■ 収入の部

入会金(354名×5,000)	1,770,000
会費(354名×10,000)	3,540,000
預金利息	1,000
2018年度収入計	5,311,000
2017年度からの繰越金	60,654,252
合 計	65,965,252

#### 決算

##### ■ 収入の部

入会金(354名×5,000)	1,770,000	
会費(354名×10,000)	3,540,000	
預金利息	657	
郵便普通		6
銀行普通(三井住友)		263
銀行定期(三井住友)		388
	0	
2018年度収入計	5,310,657	
2017年度からの繰越金	60,654,252	
合 計	65,964,909	

予算

■ 支出の部

会報No.36経費	300,000
役員経費	130,000
庶務経費	150,000
海外同窓会出張費	500,000
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生課外活動援助金	500,000
同窓生懇親会開催援助	1,000,000
各系・海外同窓会等活動支援経費	1,000,000
同窓会Web名簿システム経費	840,000
同窓会会長賞経費	395,000
「めざましごはん」支援経費	640,000
2018年度支出計	5,705,000
2019年度への繰越金	60,260,252
合計	65,965,252

決算

■ 支出の部

会報No.36経費	285,000
役員経費	61,480
2018/5/30 役員会(古野会長+役員1,500円×14名+古野会長交通費1,410円)	23,910
2018/8/24 総会(古野会長+役員1,500円×12名+古野会長交通費1,100円+山本先生交通費2,560円)	23,160
2019/2/12 役員会(古野会長+役員1,000円×13名+古野会長交通費1,410円)	14,410
庶務経費	46,274
各種振込手数料	12,096
2018/12/20 入会案内書類一式印刷費	10,584
2018/8/2 学長懇談会経費	20,594
2018/8/24 会計監査作業謝金(若原先生)	3,000
海外同窓会出張費	0
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生課外活動援助金	500,000
同窓生懇親会開催援助	574,000
2018/5/7 材料機能制御研究室 同窓会(援助)	36,000
2018/7/31 テンソー雲雀会(社内TUT同窓会)(援助)	106,000
2018/9/2 物質工学2期生還暦同窓会(援助)	32,000
2018/9/7 総会後の懇親会(援助)	26,000
2018/11/1 電気電子情報工学系第1期生 2018同窓会(援助)	28,000
2018/11/1 電気電子情報系2期生還暦同窓会(援助)	6,000
2018/11/26 第9期千三システム工学系クラス会(援助)	48,000
2018/11/26 清水建設同窓会(関東支部)(援助)	22,000
2018/11/26 第9回雲雀会(トヨタ自動車勤務 同窓会)(援助)	86,000
2018/11/26 海岸研OB会(援助)	44,000
2018/11/26 豊橋日曜学校45周年記念会(援助)	36,000
2019/2/26 2018年度ICGスキー旅行(OB10名参加)(援助)	20,000
2019/2/26 建設工学プレ還暦同窓会(援助)	52,000
2019/3/6 鈴木先生を囲んでのロボコン同好会OB忘年会(援助)	32,000
各系・海外同窓会等活動支援経費	0
同窓会Web名簿システム経費	829,136
会員管理システム事務局+会員利用料(44,928円/月×12月)	539,136
事務補佐員名簿システム管理業務補助費	290,000
同窓会会長賞経費	394,121
賞状及び筒費	14,121
副賞費(20,000円×19名)	380,000
「めざましごはん」支援経費	540,000
2018年度支出計	3,480,011
2019年度への繰越金(A)	62,484,898
合計	65,964,909

※ 2018年2月より役員手当は1,000円/時間とし、学外から来られる同窓会役員には交通費を支払うこととした。

**2019年度 豊橋技術科学大学同窓会 予算(案)**

■ 収入

項 目	金 額 (円)	
入会金 (387名×5,000円)	1,935,000	
会費 (387名×10,000円)	3,870,000	
預金利息	1,000	
2019年度収入計	5,806,000	
2018年度からの繰越金	62,484,892	
合 計	68,290,892	

■ 支出

項 目	金 額 (円)	
同窓会報No.37経費	300,000	
役員経費	130,000	
庶務経費	150,000	
卒業記念パーティ援助金	250,000	
学生活動援助金	500,000	
ホームページ刷新費用	600,000	
同窓生懇親会開催援助	1,000,000	
各系・海外同窓会・ホームカミングデイ等活動支援経費	1,000,000	
システム管理・事務経費	840,000	
システム管理・運用費		540,000
事務補佐員業務補助費		300,000
同窓会会長賞経費(賞状+副賞)	395,000	
「めざましごはんプレミアムマンデー」支援経費	640,000	
2019年度支出計	5,805,000	
2020年度への繰越金	62,485,892	
合 計	68,290,892	



## 第68回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

- 1 日 時 2019年5月25日(土)～2019年7月14日(日)  
 2 場 所 静岡県草薙総合運動公園(陸上競技)他、各競技会場  
 3 幹事大学 愛知教育大学  
 4 成 績

(男 子)

競技種目	大学名	三重大		名大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	5	3	1	8	4	4	6	2	/	/	3	5	7	1	2	6
2	水泳	5	4	1	10	2	8	6	3	8	1	4	5	7	2	3	6
3	硬式野球	1	8	5	2	4	4.5	2	6	6	2	7	2	/	/	3	4.5
4	準硬式野球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
5	硬式テニス	8	2.5	2	8	7	2.5	6	2.5	5	2.5	1	10	4	5	3	6
6	ソフトテニス	1	6	6	1	4	3	5	2	/	/	2	5	/	/	3	4
7	バスケットボール	2	6	1	8	4	4	7	1	6	2	3	5	/	/	5	3
8	バレーボール	1	10	8	0	2	8	5	4	7	2	4	5	6	3	3	6
9	卓球	4	4	3	5	5	3	6	2	7	1	2	6	/	/	1	8
10	バドミントン	4	5	2	8	1	10	5	4	8	1	3	6	7	2	6	3
11	サッカー	3	6	1	10	5	2.5	4	5	8	2.5	2	8	7	2.5	6	2.5
12	ハンドボール	6	1	3	4	1	6	5	2	/	/	4	3	/	/	2	5
13	柔道	5	0	3	3	1	5	4	2	/	/	/	/	/	/	2	4
14	剣道	1	10	5	4	2	8	7	2	8	1	4	5	6	3	3	6
15	空手道	7	0	3	5	5	3	/	/	6	2	1	8	4	4	2	6
16	弓道	2	8	5	4	6	3	1	10	4	5	3	6	7	3	8	1
17	体操	/	/	1	5	2	4	4	0	/	/	3	3	/	/	5	0
18	馬術	2	5	1	6	6	1.5	4	3.5	/	/	3	3.5	/	/	5	1.5
19	アーチェリー	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
20	少林寺拳法	3	2	2	3	4	1	/	/	/	/	1	4	/	/	/	/
合計得点		80.5		94		81		51		22		89.5		25.5		72.5	
男子順位		4		1		3		6		8		2		7		5	

(女 子)

競技種目	大学名	三重大		名大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	5	2	3	4	4	3	/	/	/	/	2	5	6	0	1	6
2	水泳	4	4	2	6	3	5	7	0	/	/	6	2	5	3	1	8
5	硬式テニス	1	6	4	3	6	1.5	/	/	/	/	2	5	3	4	5	1.5
6	ソフトテニス	5	2	1	6	4	3	6	1	/	/	3	4	/	/	2	5
7	バスケットボール	4	2	5	1	2	4	/	/	/	/	1	5	/	/	3	3
8	バレーボール	4	3	3	4	2	5	/	/	/	/	6	1	5	2	1	6
9	卓球	6	1	4	3	1	6	2	5	/	/	3	4	/	/	5	2
10	バドミントン	1	8	3	5	2	6	5	3	/	/	6	2	7	1	4	4
12	ハンドボール	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
13	柔道	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
14	剣道	5	4	6	3	2	8	3	6	8	0	1	10	7	0	4	5
15	空手道	1	6	2	5	6	1	/	/	/	/	3	4	4	3	5	2
16	弓道	4	4	1	8	6	2	2	6	/	/	5	3	3	5	7	0
17	体操	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
19	アーチェリー	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
20	少林寺拳法	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合計得点		42		48		44.5		21		0		45		18		42.5	
女子順位		5		1		3		6		8		2		7		4	



## 学生生活活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生生活活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

### 豊橋日曜学校

電気・電子情報工学課程 3年 山本 一輝  
顧問教員：建築・都市システム学系 教授 渋澤 博幸  
部員数：学部 14名、大学院 11名

この度は、私たち豊橋日曜学校にご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は、月に一度、知的障がいを持った子どもたちとふれあうことで子どもたちに様々な経験をしてもらうことを目的として活動しているボランティアサークルです。各月ごとにテーマを考え、テーマに沿った工作やゲームなどを行っています。また、毎年8月にはキャンプ、12月にはクリスマスなど、季節に沿った行事やイベントをたくさん企画することで、子どもたちにより楽しんでもらえるように工夫をしています。子どもたちとふれあうにあたり、危険な箇所を確認するために下見を複数回行うことや、怪我をしないように物品の配置位置や材質などについて会議で何度も話し合ったり、親御さんと意見を交換したりするなど、安全面には最大限の配慮をして親御さんから子どもを預かっている責任を果たせるよう努めています。

今年は新たに技科大生が5人参加してくれ、現在技科大の学生は学部生14名、大学院生11名が在籍しています。

今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、毎月の活動当日やその準備で使用する資料・物品作成用のプリンタのインク、その他備品・消耗品の費用に充てさせていただきました。

今回のご支援、そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。



### ボランティア部

機械工学課程 4年 宇留島 侑希  
顧問教員：総合教育院 教授 加藤 三保子  
部員数：学部 35名、大学院 12名

2019年8月10日（土）から8月14日（水）の5日間にかけて表浜 BLUE WALK2019は開催された。

表浜 BLUE WALKとは、静岡県と愛知県の伊良湖岬まで続く表浜海岸を清掃する活動である。本ボランティアは、本学の学生（ボランティア部：学部生35人、大学院生12人）や愛知県内の大学生を中心に運営をしており、今年度は約12.8kmを5日間かけて清掃した。参加人数は延べ190人、回収したごみは788.3kgであった。

1日の流れとしては、朝から夕方まで海岸で清掃を行う。夜は海岸付近の宿泊施設を借り、環境問題やごみ問題についてのワークショップを実施した。ワークショップを通して、海岸清掃を行うだけでは分からない環境問題の側面を知ることで、参加した学生の環境に対する意識を高めた。

本年度は台風10号の接近による高波の影響で清掃区間が縮小され、急遽タイムスケジュールを変更するイレギュラーがあった。しかし、BLUE WALKスタッフが協力して対応し、参加者の方々もそれを受け入れてくれたおかげで怪我や事故もなく、無事に活動を終えることができた。

近年、ストローやレジ袋等の使い捨てプラスチックの削減やSDGsなど、環境問題に関する話題がメディアでも取り上げられるようになってきた。私たちは本活動を通じて、参加者が環境問題やごみ問題について意識するきっかけになってほしいと望んでいる。これからも、様々な方に環境改善のきっかけを見つけてもらえるような活動にしていくために、スタッフ一同協力して企画、運営に尽力していきたい。



## 自動車研究部

機械工学専攻 修士 1年 山畑 拓海  
顧問教員：機械工学系 教授 柳田 秀記  
部員数：学部 29名、大学院 14名

この度は私たち自動車研究部へご支援をいただき、誠にありがとうございます。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。

弊部は毎年9月に開催される学生フォーミュラ 日本大会に出場するためにボディからシートに至るまで学生が自ら設計製作し、1年間で1台、車輛を作り続けています。2005年にチームを結束し、2008年には日本大会初のカーボンモノコック車輛で大会に参加し、その後は毎年、カーボンモノコック車輛で大会に参加しています。昨年はさらなる飛躍のため、以前まで使用してきた600ccバイクのエンジンに代わりモーターを搭載した電気自動車で参戦しました。今年は電気自動車2年目であり、昨年からの進化を目標にして活動しました。

今年度の支援金は、カーボンモノコックなどのCFRP製品の製作に欠かすことができない副資材と雨天用レースタイヤの購入に充てさせていただきました。

2019年度大会では、購入したタイヤでの練習走行が功を奏し、スキッドパッド部門で63チーム中6位という成果をあげることができました。また、購入した副資材で製作されたCFRP製品であるシートについては、ベストエルゴノミクス賞3位を、アキュムレータコンテナについては、グッドアキュムレータコンテナデザイン賞2位を獲得することができました。

これからもさらなる飛躍を目標に、皆様からのご支援に感謝し、たゆまぬ努力を続けて活動していきたいと思っております。今後ともよろしくご支援をお願いします。



## 水泳部

機械工学課程 3年 菅原 千生  
顧問教員：機械工学系 准教授 竹市 嘉記  
部員数：学部 16名、大学院 21名

昨年度に引き続き水泳部の活動にご支援頂きまして、誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

援助金につきましては、冬季練習やプールの5メートルフラッグ購入に使用しました。

活動としては東国体、アクアリーナカップ、インカレに出場しました。その中で、多くの部員がベストタイムを更新できたのは、先輩方からの支援によるものです。また、部員・先輩方および他大学の水泳部の交流を目的とした、8時間耐久リレーや新人戦を本大学内プールで行い、充実したシーズンを送ることができました。様々なイベントを実施し、成功することができたのは先輩方の支援のおかげです。重ねて御礼申し上げます。

本年は東国体の幹事校になっており、シーズン中は慌ただしくなることが予想されますが、先輩方の助言を基に大会運営を行っていきたいと思う次第であります。

昨年度に引き続き冬季の水中練習を行い、来シーズンでは更なる飛躍を目標に日々精進していく所存です。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。





## バドミントン部

情報・知能工学課程 3年 橋本 雄太

顧問教員:情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数:学部 28名、大学院 14名

この度は、課外活動活性化経費として我々バドミントン部にご支援いただきありがとうございます。部員一同、心より深くお礼申し上げます。この度は支援金でバドミントンシャトル夏用、冬用各2箱を購入させていただきました。私たちバドミントン部は部員42名で毎週月曜日と金曜日の19時～22時に大学の体育館にて活動しています。バドミントン部には学部生や大学院生、また留学生も在籍しておりますが練習の際には学年関係なく、ときに教えあったり競い合ったりしながらとてもまとまったよい雰囲気の中で練習しています。練習内容としましては各大会で優秀な成績を修めることを目標とし基礎練習と試合練習をメインに日々練習を行っています。また、週に2回の練習以外に、外部への練習などにも積極的に参加しています。今年度の東海地区国立大学体育大会では惜しくも8位の成績を修めました、昨年度に比べるといい結果ではありませんでした。来年度こそはいい結果を残せるよう明確な目標を持ち日々練習に励み精進していこうと考えています。9月に行われた豊橋リーグではAチームが4位、Bチームが3位という結果でした。支援いただいたシャトルを有効に活用し次に行われる3月の豊橋リーグ、来年度の東海地区国立大学体育大会でより良い成績が修められるよう努力していきたいと思っております。今後ともご支援、ご協力よろしくお願いたします。



## おちゃのかい

機械工学課程 3年 寺村 友希

顧問教員:機械工学系 教授 中村 祐二

部員数:学部 16名、大学院 9名

この度は私どもおちゃのかいをご支援いただき、誠にありがとうございます。

現在、おちゃのかいでは毎週火曜日と金曜日に学外から講師として裏千家茶道をされている高橋先生と佐々木先生にお越しいただき、お二人のご鞭撻の元、日々の稽古に励んでおります。今回の補助金のご足労くださっている先生への謝礼や、お稽古で使うお道具代に充てさせていただきました。おかげさまで部員一同新たな道具と新たな気持ちで活動を楽しんでいます。

おちゃのかいでは、毎週のお稽古だけでなく、地域の方々との交流や日々のお稽古の成果を披露する場として、「ふつうの茶会」や「技科大庵」といったイベントも開催させていただいております。

「ふつうの茶会」は毎年9月に豊橋公園三の丸会館にて、私どもおちゃのかいが主催させていただいている茶会で、地域の一般の方々から、おちゃのかいOBや他大学の茶道部など幅広いお客様にお越しいただいております。おちゃのかいにとって一年で最も大きな行事のため、部員一丸となり、この行事の大成を目標として日々の稽古に熱心に取り組んでおります。

また、10月初めの技科大祭では、「技科大庵」と称し、学内や一般の方にお抹茶とお菓子をお出ししております。今年の技科大祭は台風の影響で様々な制約の中での開催となりましたが、多くのお客様にお越しいただき、最終的には用意していたお菓子がなくなってしまうという盛況ぶりでした。この「技科大庵」では、私含め茶道を始めて一年目の部員が人前でお点前を披露する場でもあり、初々しいながらも日々の成果を発揮できたお点前ができたと感じております。

最後になりますが、私どもおちゃのかいは伝統を重んじ、多くの方に茶道を楽しんでいただけるよう部員一同日々の稽古や地域の方々とのイベントに励んでいきたいと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。



## 軟式野球部

機械工学課程 3年 篠崎 将己

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

部員数：学部 14名、大学院 13名

この度は、課外活動活性化経費としまして、軟式野球部の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。今年度は、以前から使用していた劣化が進んでいたヘルメットの新調に援助金を使用させていただきました。

現在、軟式野球部は、主に土曜日の午前中を中心に練習を行っています。ノック、シートバッティングを中心に、人数が揃えば実戦形式での練習を行います。また、国体予選、豊橋野球協会 BC 級大会、豊橋野球協会会長旗争奪大会などといった軟式野球の大会は、日曜日を中心に開催され、毎年参加しています。今年度上半期の大会では、人数がそろわない日や悪天候などで結果を残すことが出来ませんでした。残りの今年度下半期の試合や来年度の試合は、各大会においての優勝を目標に、一戦一戦に集中して戦い抜き、より一層充実したシーズンにしていきたいと思っています。さらに準硬式での試合となる東国体に関してはどのチームも強豪であるゆえ、十分に戦える力をつけていきたいと考えています。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 弓道部

電気・電子情報工学課程 3年 小川 裕也

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

部員数：学部 21名、大学院 3名

この度は弓道部に課外活動活性化経費のご支援誠にありがとうございます。経費は道場の使用料および弓具などの購入に使用させていただきました。

今年度も澤田和明教授に弓道部の顧問をしていただいております。また弓道場は大学の外の野依八幡社の弓道場をお借りして使用しています。

今年度で弓道部の目標は「楽しく弓道をしよう」という目的とともに、「弓道をやった証を残そう」と目標を掲げました。そのかいあってか、部員たちの意欲的に弓道に取り組んでくれました。弓道部は学生同士で切磋琢磨しながら練習するのが基本的な練習方法です。また部員間で互いに教えあって練習しています。

来年度以降での大会や段位取得、昇段に向けたさらなる練習の質向上のために、市営道場にまで出向き、高段位所持者の方々にご指導を仰ぎながら日々の練習に励んでいます。

今期の夏合宿は学部生、大学院生はもちろんドイツ人留学生も参加してくれ、賑やかな雰囲気の中、それぞれ親睦を深めながら練習を行うことができました。参加者の中には初心者の方もいましたが、教える側、教わる側が真剣に向かい合いながら練習に取り組んだ結果、最終的には起坐を含め、参加者全員が競射を行うことができるまでに至りました。

これからも一つ一つの練習を大切にしながら精進して参りますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。





## 空手道部

応用化学・生命工学課程 4年 大谷 涼  
顧問教員:電気・電子情報工学系 教授 滝川 浩史  
部員数:学部 5名、大学院 6名

昨年度に引き続き、空手道部へ課外活動活性化経費を援助していただき、誠にありがとうございます。

空手道部は毎週日曜日と木曜日にそれぞれ二時間の練習を行っています。そのうち日曜日の練習においては、外部講師として日本空手協会三河支部代表者の平野茂広先生を招いて指導を受けております。支援金は講師への謝礼金として使わせていただきました。

また、昨年度からは新たに空手道・柔道の経験者や、ドイツやフランス、エジプトからの留学生も加わったことで、部が一層活気づいたものとなり、充実した練習を重ね、実力を高めることができました。

今年度は東国体で入賞するという目標を達成することはできませんでした。しかし、支援金の付与により、実戦的かつ充実した内容の練習を行うことができるようになったため、来年度以降の各大会での入賞や段位取得が期待できると思われまます。また、日本武道の精神や技術を学び、海外からの留学生たちにも伝えられるよう、努めてまいります。

皆様の支援への感謝を忘れずに、大学院6名、学部5名、計11名の部員一同、研鑽に励みたいと思います。



## ロボコン同好会

機械工学課程 3年 井上 晴渡  
顧問教員:機械工学系 准教授 佐野 滋則  
部員数:学部 19名、大学院 7名

この度は我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費よりご支援いただき誠にありがとうございました。部員一同心よりお礼申し上げます。弊サークルは「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」優勝を目指して日々活動しています。

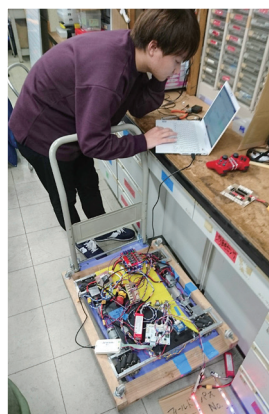
昨年度は、大会前日まで国内最速の記録を出していたものの、当日のフィールド障害物の前日との差異により、本領を発揮できず予選敗退に終わりました。

しかしながら、今年度の「東海地区交流ロボコン」(日本の大学のロボコンの技術力向上を目的とした大会)において、弊サークルから2チームが出場し、優勝、準優勝という結果を残すことができました。

弊サークルはその他にも、他大のロボコンサークルと互いの技術力の向上を目的とした交流会も行っています。また、地域のイベントにも参加し、子供たちにロボットの操縦体験をしてもらうことで、ものづくりの楽しさを伝えていきます。

今年度は課外活動活性化経費でCNCフライス盤用コレットチャック、IMUセンサー、エアコンプレッサー、台車、ケガキゲージ、アクションカメラを購入させていただきました。これらの物品は主に作業効率の上昇を目的としたもので、現在、活動において大変役にたっております。

ご支援いただいた物品を生かして、まずは国内大会である「NHK学生ロボコン2020」優勝を目指して尽力いたします。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。





## 総合文化部

情報・知能工学専攻 1年 及川 達也

顧問教員：応用化学・生命工学系 講師 山田 剛史

部員数：学部 21名、大学院 12名

この度は私ども総合文化部をご支援いただき、誠にありがとうございます。私どもは数個の部門に分かれて活動しており、この度のご支援は私の所属する音楽技術部門の活動に充てさせていただきます。

総合文化部音楽技術部門 (TechnoTUT) は、音楽制作をするDTM班と、DJ班を中心に活動しております。私どもの音楽制作は主にPC上で行われるのが特徴的です。年に数回開催される同人即売会等に出展するほか、部員個人の音楽活動も活発です。DJ部門では不定期に学内DJイベントを開催するほか、学祭では音響・映像・照明設備をフルに使い、学外ゲストを呼び大規模なイベントを行います。また、近隣大学のDJサークルと合同で、練習会や交流会を行います。また、学内のパーティーでDJパフォーマンスを行うこともあります。さらに、部員個人がDJとして名古屋や浜松のクラブを中心に活躍しています。加えて、設備・技術提供も行っており、私たちの音響・照明設備を、学内で行われる国際文化交流イベントTUT EXPOや、TEDxToyohashiUTへ提供し、よりよいイベント演出のため積極的に活動しております。

この度のご支援により、大規模な照明設備を購入させていただきました。これはDJ活動のほか、学内で行われる各種イベントの活動規模の維持に不可欠です。照明演出は、たとえそれが観客に意識されずとも、会場全体の雰囲気大きく左右する、イベントにとって重要な構成要素です。よりよい演出、そしてそのための技術を学び、考えることは、将来あらゆる場面で役に立つと信じております。今後とも私どもをご支援いただけますと幸いです。



## 留学生スポーツクラブ

情報・知能工学課程 2年 BUI TUAN THANH

顧問教員：機械工学系 准教授 竹市 嘉紀

部員数：学部 20名

この度は私たち留学生スポーツクラブへご支援をいただき、誠にありがとうございます。留学生スポーツクラブ部員一同、心より御礼申し上げます。

本サークルは、豊橋技術科学大学に在学中の学生の皆さんを集め、スポーツや課外活動(大会、BBQ、紅葉)を通して、皆さんと一緒に体を動かし、楽しい時間を過ごすという方針で設立されたサークルです。毎週の土曜日と日曜日に年々に渡って、ベトナム、マレーシア、インドネシアなどの留学生たちの心安いスポーツでの交流の場になりました。さらに、スポーツだけではなく先輩・後輩間での交流も活発であり、日本での生活の経験が飛び交う活気あるサークルです。今年度は新入部員に恵まれ、より一層活動が活発となっております。毎週の土曜日と日曜日にバドミントンとサッカーを行なっています。

全部員が練習でき、大会を行うために、様々なスポーツ用具等の品物が非常に必要となります。今年度は課外活動活性化経費でバドミントンラケットやサッカーボールやスポーツ用冷却スプレーなどのバドミントンとサッカーの用具を支援いただきました。替える必要のある物品および新しいスポーツ用具の購入の必要が生じた問題が解決できました。今年の7月に運動大会が行えました。11月のサッカー大会を準備することに励んでいます。

新しいスポーツ用具を留学生スポーツクラブの倉庫にきちんと保管し、練習に使用します。国際交流活動をさらに深め、設立から述べた方針の通りに、もっともっとイベントや大会を行い、留学生たちの精神生活を充実できるように支えていきます。

これからも一つ一つの練習を大切にしながら精進して参りますので、今後ともご支援のほど、よろしく御願申し上げます。また、お時間があれば、ぜひ留学生スポーツクラブへお越しいただき、一緒にスポーツを交流しましょう。



## TEDxToyohashiUT実行委員会

情報・知能工学課程 4年 マーティンセン マイケル 誠  
顧問教員: 電気・電子情報工学系 准教授 河野 剛士  
部員数: 学部 25名、大学院 2名

この度は、私たち TEDxToyohashiUT 実行委員会を御支援頂き、誠にありがとうございます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

TEDxとは、TEDの「よいアイデアを広めよう (Ideas Worth Spreading)」の精神に基づいて世界各地で独自に運営されているコミュニティであり、TEDxToyohashiUTは豊橋技術科学大学を中心として、人々が一緒になってTED 本体と同様の体験を共有することが出来る役割を担っております。

2018年10月に発足したこの団体はイベントの初開催を2019年3月に行い、114名ほどの方が学内外問わず参加をしてくださりました。また豊橋市および本大学、Red Bull、愛知大学 (DJサークル) がパートナー (スポンサー) になってくださり、地元豊橋とより密接した連携、他大学との交流も行うこともできました。現在は来年開催に向けてメンバーと月に2回ほどの会議を開いて活動しております。

今般ご支援いただいた経費では、会場撮影用のカメラ機材を購入させていただきました。このカメラはアクションカメラといい、体の一部や道具、乗り物などに装着させるため、臨場感あふれる映像を記録できる点が最大の特徴であり、録画機材には欠かせないものの一つです。

機材購入費に加えて旅費も頂きました。私どもはまだ発足して間もないコミュニティであり、日本各地で開催されている TEDx イベントに参加し、先人の知識と知恵を学ぶためにも必要不可欠なものでした。

今後も部員一同、より良いアイデアを発信するべく努力させていただきますので、今後ともご支援いただければ幸いです。



## 波乗り部

情報・知能工学課程 3年 高城 翼成  
顧問教員: 総合教育院 准教授 Ryan Eugene  
部員数: 学部 29名、大学院 11名

今年度、波乗り部の活動にご支援いただきありがとうございます。僕たちは現在部員40名で表浜で毎週水曜日朝6時から全体練習を行い、個人でも平日朝や夕方に海に行って活動しています。

練習は波がある日は部員で集まり海へ行きますが、波がない日や夜はサーフスケートで陸上でもトレーニングをしています。新入生の学部3年生は車を持っていない生徒や寮に住む生徒が多く先輩の学部4年生や大学院生と車に乗り合わせて海へ行っています。

先輩達と新入部員の距離が近く、部内は明るい雰囲気です。サーフィンには道具を揃えるのにお金がかかるので、今回の課外活動活性化経費で新しいサーフィン道具を揃えることができ、部員の上達へと繋がりました。家にサーフボードを置くことができない、サーフボードを買えないといった学生やサーフィンに興味がある学生が今よりもっとサーフィンがしやすい環境を作ることができました。

毎年開催されるOB戦では、OBの方々とも部員が競い合いました。毎年部員の技量が向上していると言っただけ、これからも波乗り部は活発に活動していきたいと思いましたが、今年度は学生サーフィン連盟の大会に参加する部員はいませんでした。来年の出場と大会での良い結果を目指して日々努力していきます。

今後も波乗り部部員一同、サーフィンだけではなくビーチクリーンなども積極的に参加して地域に貢献し、大会で結果を残せるよう日々練習していきます。

今回はご支援ありがとうございました。





## サッカー部

機械工学課程 3年 小森 雅己

顧問教員：建築・都市システム学系 教授 加藤 茂

部員数：学部 24名、大学院 2名

この度は我々サッカー部に、課外活動活性化経費よりご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

豊橋技術科学大学サッカー部は現在部員数 26 名で構成されており、学部生から院生と幅広く、さらには本学の留学生も交え、サッカーを通して楽しく交流の輪を広げています。月に一回、近隣大学や社会人チームとの練習試合を行い、東国体などにも参加しております。一部の学生は、地元の社会人の方々とチームを組み、リーグ戦にも参加しています。また、今年は新 13 年生の活躍もあり創造杯で 2 位という成績を収めることが出来ました。新体制でも変わらず、「サッカーは人生だ!」をテーマに、このような大会等を通してレベルアップしていけたらと思っております。

今回ご支援頂きました課外活動活性化経費は、東国体に参加するための部員の交通費に充てさせて頂きました。昨年度は、金銭的な理由で欠席を余儀なくされる学生が多く、東海地区へ進出するチャンスが無駄にしました。しかし、今年は三重県開催であるにも関わらず、お陰様で多くの部員が参加することができました。結果は満足のものではなかったものの、他県の強豪と戦い、自分たちの実力や改善点を知る非常によい機会になりました。

皆様からのご支援に感謝することを忘れず、一試合一試合を大切に戦い日々精進してまいります。変わらず、温かく見守っていただき、応援していただけたら幸いです。



今後ともよろしくお  
願い申し上げます。



## 硬式野球部

応用化学・生命工学課程 3年 那須 大翔

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

監督：特定准教授 土谷 徹

部員数：学部 15名

昨年に引き続き硬式野球部の活動をご支援いただきまして有難うございます。現在は 4 年生 9 人、3 年生 6 人の計 15 人で活動しています。顧問として電気電子情報工学系教授の澤田和明部長と特定准教授の土谷徹監督にご支援・ご指導いただいております。練習は主に火曜・木曜の放課後と土曜の午後に行っています。

私たち硬式野球部は愛知大学野球連盟に加盟しており、春季と秋季の年 2 回のリーグ戦があり、現在は 3 部リーグに所属しています。今年度の成績は、春季は 3 部 A リーグ 5 位、秋季は 3 部 A リーグ 5 位と、なかなか結果を出すことができていません。しかし、春季リーグ戦では 1 勝をあげることができました。

授業等の関係で平日の練習は全員揃うことが難しく、主に個人練習や基礎的な練習を行い、土曜日に全体練習や実戦的な練習を行っています。今年度からバッティングマシンを購入していただいたので、バッティングマシンを利用した打ち込みの練習も行っています。冬場のオフシーズンは筋トレや走り込みなど、体作りを目的とした練習を行っています。リーグ戦前にはオープン戦を積極的に組んで、リーグ戦に備えています。

今回の援助金はキャッチャーのプロテクター、竹バット、木製バットに使用させて頂きました。来年度は、冬場にしっかりとトレーニングを積み、新入生とも力を合わせ、1 勝でも多く勝利を積み重ね、充実したリーグ戦にしたいと思います。今後ともご支援の方よろしくお願い致します。





## 硬式テニス部

機械工学課程 3年 片桐 遊輝

顧問教員：電気・電子情報工学課程 教授 滝川 浩史

部員数：学部 34名、大学院 8名

この度は、硬式テニス部に課外活動活性化経費のご支援をいただき誠にありがとうございます。部員一同、心より感謝し御礼申し上げます。

弊部は、毎週月曜日と水曜日の18時～21時に活動を行っています。現在の部員構成は学部1年から大学院1年生まで在籍しています。部員数が多いため練習内容は、球出し練習などの基礎練習、チームに分かれてのミニゲームなどを中心に行っています。部員同士の交流が盛んなので、練習時に教えあいながら、競い合いながらテニスを楽しんでいます。また、所属課程、学年関係なく仲が良いこともテニス部の特徴です。

大会については、例年通り東海地区国立大学体育大会、東海学生テニス連盟のリーグ戦に出場しました。昨年度、リーグ戦において6部2位かつ入替戦に勝利し、5部に昇格しました。今年度は、5部5位と下位2校である為、6部との入替戦を控えています。入替戦まで数週間ですが、5部残留を目指し頑張ります。

今回、皆様にご支援いただいたテニスボールにより、部員のモチベーションが格段に向上しました。テニスボールは高価かつ消耗品であり、劣化に伴って打感が悪化します。中古ボールを練習球としていたので環境が非常に良くなりました。

今後の活動については、基礎練習の種類を増やし、部全体のレベル向上、リーグ戦にて安定した5部残留と更なる昇格を目指していきたいと思っております。今後ともご支援よろしくお願い致します。



## 模型部

機械工学課程 4年 坂口 翔

顧問教員：情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数：学部 13名、大学院 4名

この度は模型部の活動に対してご支援をいただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

本模型部はおかげさまで2010年の設立から今年で10年目を迎えることができました。今年度も新入部員に恵まれ、8名ほど入部してくれました。普段の活動は毎週2日、講義室を借りて行っています。また、サークルの年間行事として新入生歓迎会や技科大祭での展示、テーマを決めて作品を作る部内コンペティションを開催するなど部員同士、技術の向上に励んでいます。さらに、ブログやTwitterでの情報発信などを通して外部との交流を行い、模型文化の普及に励んでいます。今年度は学部生の人数が増えたことで、展示や部内コンペティションに並ぶ作品が増え、見ごたえのある展示になっていくことが予想されます。

今回のご支援により購入させていただいたプラモデルは、技科大祭で開催予定だった小学生向けの模型製作体験教室にて使用する予定でしたが台風19号の影響で技科大祭が1日目は中止、2日目は学内の生徒のみの参加となったので今回は使用できませんでした。模型教室が中止になったため今回のご支援により購入させていただいたプラモデルはまた別の機会に小学生向け模型製作体験教室を開催する際に使わせて頂きます。

今後ともご支援のほどよろしくお願ひいたします。



## バレーボール部

電気・電子情報工学課程 3年 中原 智裕

顧問教員：機械工学系 教授 福本 昌宏

部員数：学部 21名、大学院 7名

バレーボール部の活動にご支援して頂いた皆様、誠にありがとうございます。今年度の援助金は新たなボールやネットの購入、また各大会への参加費、遠征費として使用させて頂きました。部員一同心より御礼申し上げます。

我々バレーボール部は東海地区のリーグ戦や東国体への出場に向けて、毎週火木曜の放課後と土曜の午前に体育館で活動を行っています。

今年度は10名以上の新入部員が加わり、昨年度よりも更に賑やかな雰囲気の中練習を行うことができます。新入部員の約半数はバレーボール初心者でしたが、入部から半年が経った現在では経験者たちに劣らないほど活発にプレーをしています。

しかし今年度はまだ各大会で好成績を残すことができていません。ですが初心者たちの成長は目まぐるしく、また経験者たちは更なる上達へ向け練習に励んでいます。学部1年の新入部員も多いため、来年度以降は更に良いチームへと成長し、きっと良い成績を収めたいと思います。

現在の活動が行えているのは皆様の暖かいご支援のお蔭と、心より感謝しています。皆様のご期待に添うべくこれからも精一杯精進し、より良い部活にしていきたいと思っております。今後ともご支援を賜りますようお願い致します。



## 技科大祭実行委員会

建築・都市システム学系 3年 三井 寛子

顧問教員：総合教育院 教授 池松 峰男

部員数：学部 45名

この度は、技科大祭実行委員会に課外活動活性化経費のご支援をいただき、誠にありがとうございました。同窓会の皆様にご支援いただいた活性化費用は、例年同様、技科大祭で使用されるステージのバックパネル製作材料の購入資金として活用させて頂きました。このバックパネルは、下の写真のように技科大祭で使用するステージに飾られるもので、全学生に対しデザインの募集を行い、選ばれたデザインをもとに実行委員会のメンバーが製作します。バックパネルのデザインは、その年の技科大祭の方向性を表し、「顔」となる重要なものです。

第42回技科大祭は豊橋技術科学大学の5つの学系の英語表記の頭文字をとった「MEICA」というテーマで、それぞれの系が混ざり合い個性を出し、技科大祭を楽しもうという意味が込められています。ステージのバックパネル、およびロータリーの看板デザインは、5つの学課を歯車で表現しました。各学課が噛み合う歯車のような相互関係を作り上げ、一体となって技科大祭を盛り上げたいという思いが込められています。

今年度は台風の影響により、学内の関係者のみの開催となりました。予定していた様々なステージ企画やパフォーマンスが中止された中、お笑い芸人のライブ、校舎内の模擬店など小規模ながらたくさんの大学関係者の方々に楽しんでいただくことができました。

同窓会の皆様のご支援、ご協力のもと、今年も無事技科大祭を執り行えましたことを、心より感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。







## 同窓生への支援事業報告

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。同窓会正会員が10名以上参加したイベントに対して、一人2,000円を上限に助成しております。2019年度は8団体（2019年11月現在）に対して助成を行いました。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法は同窓会ホームページ（<http://www.alumni.tut.jp/>）に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

### 鈴木先生を囲んでのロボコン同好会OB忘年会

平成 5年度 修了 檜山 武士

#### 開催概要

実施日 | 平成 30年 12月 29日

開催場所 | 一福食堂

出席者数 | 17名(内本学卒業・修了生16名)

豊橋技科大ロボコン同好会のOB有志にて、前顧問・鈴木新一先生を囲む会を開催いたしました。鈴木先生は技科大を退任後、来年度のABUロボットコンテスト開催

国であるモンゴルにてロボコンの指導をされているとのことで、帰国のタイミングに合わせ忘年会を兼ねての開催となりました。当日は遠方からの参加者が雪の影響で遅れるハプニングもありましたが、過去の思い出話とともに現役学生に向けた期待も語られ大いに盛り上がりました。今後機会があれば集まって懇親を深めるとともに、現役学生へのサポートも積極的に行うことを皆で誓い合いました。



### 2018年度ICGスキー旅行

平成 29年度 修了 高橋 利昌

#### 開催概要

実施日 | 平成 31年 2月 2-3日

開催場所 | エイブル白馬五竜&Hakuba47(スキー場), 黒部観光ホテル(宿泊先)

出席者数 | 33名(内本学卒業・修了生10名)

本会は本学の現役学生とOBの交流を深め、OBの近況を生の声としてお聞きする機会を提供することや、学生の就職活動に向けた貴重な情報収集の場として活用することを目的とし、本学EIRIS准教授の野田先生が博士後期課程在学時に考案された、1泊2日のスキー旅行となります。本年度は強風のため、一部リフトが運行停止になる等のトラブルもございましたが、怪我無く充実した2日間を満喫されたことと存じます(特に夕食の飲み放題バイキングが好評でした)。

閑話休題、今回は本会発足から15周年となる記念すべきスキー旅行となります。ご多忙中の折とは存じますが、お誘いあわせのうえ、奮ってご参集くださいますよう、お願い申し上げます。





---

---

## 建設工学プレ還暦同窓会

昭和 58年度 修了 福島 重治

---

---

### 開催概要

実施日 | 平成 31 年 2 月 9 日

開催場所 | ホテルアソシア豊橋

出席者数 | 27名(内本学卒業・修了生27名)

我が第6系(建設工学)3期は大学卒業後、初の同窓会でした。還暦(会社退職)を前に『プレ還暦同窓会』と名付けて、全国から集まりやすい豊橋の地で2月9日に開

催しました。51名中27名が参加し、あっという間に学生時代にタイムスリップし、学生時代の馬鹿話、現在の仕事内容、還暦後の抱負等で大変話が盛りあがりしました。その後2次会、3次会と、ほとんどのメンバーが参加し名残惜しい一日となりました。次回は年金受給前『プレ年金同窓会』を実施する予定です。



---

---

## 材料機能制御研究室 同窓会

平成 26年度 修了 足立 望

---

---

### 開催概要

実施日 | 平成 31 年 4 月 6 日

開催場所 | 豊橋技術科学大学 サカキパーク

出席者数 | 50名(内本学卒業・修了生14名)

機械工学系 材料機能制御研究室では、毎年春に同窓会を開催しております。毎年 20 名ほどの卒業生・修了生に参加して頂き、交流が続いております。今年度は4月6

日(土)に開催し、研究室の思い出話に花を咲かせました。研究室に新しく配属となった学部4年生・修士1年生を始め、在校生にとって、先輩と交流を深める良い機会となっております。お忙しい中ご参加頂きました皆様に、感謝を申し上げます。また、次回は令和2年春に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



---

---

豊橋技術科学大学関西支部同窓会

昭和 57年度 修了 後藤 公司

---

---

開催概要

実施日 | 平成 31 年 4 月 13 日

開催場所 | 旬魚問屋 吉今

出席者数 | 21名(内本学卒業・修了生18名)

4月13日に建設系の関西支部同窓会を新大阪近くの「吉今」にて開催しました。当日は関西のみならず、西は鹿児島、東は千葉より18名の卒業生と3名の元教官・技官が集まり、

美味しい食事とお酒を頂きながら一人一人に近況を語って頂きました。会の中ほど、3期の福島さんによる本格的なマジックショーもあり、多いに盛り上がりました。次回同窓会は、場所は未定ですが4月18日に行う予定です。連絡先がわからずご案内が難しい状況ですが、関西在住の方、若手の方、皆さんのご出席をお待ちしております。



---

---

第10回雲雀会 (トヨタ自動車 同窓会)

1994年度 修了 石原 央之

---

---

開催概要

実施日 | 平成 31 年 4 月 19 日

開催場所 | キャプテンジョーカーズ

出席者数 | 48名(内本学卒業・修了生48名)

トヨタ自動車に勤務する卒業生の同窓会（雲雀会）で、2010年より毎年開かれており、10回目の開催となりました。第1期生～新入社員まで48名が参加しました。久しぶりの再開に会話が弾み、至る所で笑顔が溢れておりました。

イベントでは「テーブル対応の効き〇〇クイズ」、「新入社員の余興」等があり、会場全体が大いに盛り上がりました。今回は平成最後かつ第10回という節目でしたが、時代は令和に変わっても雲雀会はこれからも歴史を刻んでいくことを全員が確認し、来年の開催も決まりました。普段の仕事では関わりの少ない方々でも、同じ学び舎を卒業した親近感や一体感は特別な存在で、かけがえのない大切な財産であることを改めて感じました。





平成11年度 修了 安部 洋平

開催概要

実施日 | 令和元年7月20日

開催場所 | ホテルアソシア豊橋 レストラン ロジェール

出席者数 | 43名(内本学卒業・修了生27名)

2019年7月20日に極限成形システム研究室(旧塑性加工研究室)同窓会を行いました。特任教授の森謙一郎教

授のもと卒業生28名と家族、在學生12名が集まりました。森先生より簡単な研究室の近況報告がありました。卒業生同士や在學生との間で近況や就職に関連する話題などで盛り上がりました。次回開催の際には参加をよろしくお願ひします。



令和元年度同窓会定例総会出席者懇親会

2012年度 修了 川島 朋裕

開催概要

実施日 | 令和元年8月25日

開催場所 | 宴湊

出席者数 | 10名(内本学卒業・修了生10名)

令和元年8月25日(日)に開催した同窓会定例総会後に懇親会を開催し、10名の同窓生の方々に参加いた

きました。短い時間ではありましたが、日々の雑事を忘れ、思い出や今後の同窓会について語らう、非常に盛り上がった会となりました。定例総会後の懇親会は恒例行事になっており、次年度も開催予定です。是非お近くの同窓生をお誘いあわせの上、ご都合のつく同窓生の皆様は気軽に参加いただければ幸いです。





---

---

## 分子情報システム研究室同窓会

---

---

1997年度 修了 加藤 博明

---

---

### 開催概要

---

---

実施日 | 令和元年9月15日

開催場所 | 名鉄ニューグランドホテル 扇の間

出席者数 | 73名(内本学卒業・修了生65名)

高橋由雅先生の御退職を記念して、名古屋にて研究室同窓会を開催しました。第1部：高橋先生の記念講演、第2部：同窓会（立食パーティー）の二本立てで実施し、高橋先生ご夫妻をはじめ、知識情報工学系（旧7系）創設

期の卒業修了生から昨年度の情報・知能工学系（新3系）修了までの同窓生など計73名の方々にご参加いただきました。祝辞スピーチや近況報告、研究室フォト・歴史リーの上映などで当時を振り返りながら、盛会のうちに終了しました。次回は、旧阿部研・加藤研を含め、また皆で集える機会を設けたいと思います。今回参加できなかった方々を含め、ご提案・ご協力をお願いいたします。



---

---

## 第四回大門研究室OB・OG会

---

---

平成6年度 修了 大門 裕之

---

---

### 開催概要

---

---

実施日 | 令和元年8月31日

開催場所 | クラージュ

出席者数 | 18名(内本学卒業・修了生10名)

大門研究室が開設された2008年から10年が経ち、これまで31名の学生が卒業・修了していきました。人と人との絆を大切に、同窓生と現スタッフ・学生との交流の機会を設けるため、第四回大門研究室同窓会を初めて豊橋以外（東京）で開催致しました。先輩方からは当時の

エピソードや現学生へ励ましのお言葉を頂き、またサプライズで同窓生の結婚祝いを行うなど、充実した時間を過ごすことができました。これまで、2年毎の開催をしています。同窓生へは連絡先の確認を含め、暑中見舞いと年賀状を毎年郵送しています。本会の連絡は、メールの送信や大門研究室ホームページへの掲載、暑中見舞いの送付を通して、ご連絡させて頂いておりますので、知人への周知や住所変更の連絡などにご協力をよろしくお願いたします。



---

---

## 海岸工学研究室OB会

平成29年度 修了 平間 史泰

---

---

### 開催概要

実施日 | 令和元年 10月5日

開催場所 | サカナイタリアン PADDLE

出席者数 | 30名(内本学卒業・修了生18名)

海岸工学研究室OBを中心に先生、在校生も含め、毎年開催されています。青木先生(現:大阪大学)、加藤先生(本学5系)、岡辺先生(本学5系)にもご出席いた

き、交流を深める貴重な会となりました。OBと先生、在校生と幅広く懇親、情報共有しているため、珍しい場となっています。愛知県外からの参加も多いので、近年では、豊橋、名古屋と開催場所が増えている状況です。ご都合が合いましたら、気軽にご参加いただければと思っています。





